

第16回復興支援活動

(復興地に学ぶ会)

「復興地という場をお借りして

人としての生き方を学ぶ会」



石巻 金華山 (牡鹿半島)

2013.4.26-4.29

【第16回 復興支援活動(復興地に学ぶ会) 行程表】					
4月26日(金)	18:30	JR尼崎駅 南側バスロータリー 受付			
	19:00	バス出発((夕食は事前に済ませてください))			
27日(土)	6:30	石巻港IC(高速道路)から一般道へ			
	7:00	門脇小学校前を通過			
	8:30	牡鹿ボランティアセンター(牡鹿半島 鮎川浜) 到着			
	9:30	鮎川浜より金華山へ船出発			
	10:00	第1日目 作業開始			
	17:00	作業終了 → 宿泊施設へ → 夕食			
	19:00	体験発表会			
	23:00	消灯			
	28日(日)	6:30	清掃活動→ラジオ体操		
8:00		第2日目 作業開始			
11:30		活動終了			
12:30		金華山から鮎川浜へ船出発			
13:30		牡鹿仮設商店街散策 (商店街にて各自昼食)			
15:00		牡鹿ボランティアセンター出発			
16:30		大川小学校到着→ご冥福をお祈りする			
17:00		道の駅(上品の湯)入浴+夕食=2時間 (各自レストラン等で夕食)			
19:00		バス出発(帰路)			
29日(月)	8:00	JR尼崎到着 解散			

参加者

大阪 46 名 (教師 24 名・掃除に学ぶ会 10 名・高校生 1 名・大学生 11 名・大学院生 1 名)

+

東京 20 名

★★奈良県二十代 男性★★

【石巻に見た変化】

門脇小学校でバスを降り、石井先生を迎え、山城君と山中さんを見送りました。

海辺に積み上げられていた山のような瓦礫はなくなっていました。廃車の山も減っていました。少しずつ前へ進んでいる石巻の姿がありました。しかし、二年でまだこれだけ・・・という気持ちにもなりました。大谷先生は、以前のような力仕事の段階から、心の面での支援が必要になってきている。その分、見えにくくなってきていて、これから踏ん張ってこられた方に病が出てくると言われました。

【金華山清掃・石森さんの話から】

辺り一面に転がった糞をほうきで掃き、このあたりが済んだから次は・・・と顔を上げると、黙々と掃かれている方、手で集められている方がいて、「休んじやいられない！」と気を入れ直しました。東京チームと合わせて約八十人、仲間がいることで力が湧いてくるのを感じました。

そのうち、掃除に学ぶ会の方の掃き方は、僕と違って優しいように見えてきました。芝を乱さず、糞と落ち葉だけをさっと拭き取るのように掃かれ、これは真似したいと思いました。しかし、

僕がやっても力ばかり入って、糞はあまり動いてくれません。掃き方ひとつでも奥の深さを感じました。六時間ほど掃いて、掃いた所は青々と緑が照らされました。満足感に満ちて、夜は石森さんと女性の方々が作ってくれた夕食をいただきます。この日までに準備を整えてくださり、心温まるおもてなしをしてくださったことに感謝です。テーブルを囲んだ東京チームの方ともお話が弾み、初対面であることを忘れて盛り上がりました。

夕食の後は、東京チームの方、石森さんご夫婦からお話をいただきました。震災発生当時、家族全員が別の所において、恐怖と不安で一杯だったことが、言葉ひとつ表情ひとつから胸に入ってきました。津波を「黒い壁」と表現され、それに飲まれていく死体を救おうとしたけど止められたこと。そして、家族との再会。奥さんは「学校にいれば、安心。」と言われていました。この時、教師が（少なくとも僕自身が）、学校が避難所になった場合の備えに対して不十分であることに気づきました。非常食の保管は？職員の対応は？何も知りません。

僕達が住む街にも、東北と同じことがいつか起こりうるでしょう。被災地から学ばなければなりません。

【窓拭きから】

最終日の朝からは、久井さんに教わって窓ガラスの掃除をさせていただきました。プロの久井さんをして、「簡単だけど難しい」という窓拭き。確かに、綺麗に拭き取ったはずの汚れが、時間を置くと浮かび上がります。気になり始めるとキリがありません（笑）「窓拭きって人間性が出るわ〜。」と思いました。

いいことをして心を磨いて綺麗になったつもりでも、時間が経てば忘れてしまい、拭き残しが出てくる。それが、今の自分と重なりました。だから僕は、石巻に行くことで大切なものを思い出したり、抱えている悩みの答えを求めたりしているのだと思います。

そして、丁寧に汚れを拭き取っている相賀さんから、物事ひとつに丁寧に取り組むことを教わりました。五階の部屋の窓を拭いてから、下の階に下り、最後は事務所のガラスを拭きました。通る方が「綺麗ですね〜。」とかけてくださり、その言葉と優しさで嬉しくなりました。独りでやるよりも、相賀さんと二人でやったという気持ちで強く胸にありました。

【野球部の学生から】

のれん街では、産大野球部の学生さんと話をしながら買い物をして、お昼を食べました。お店の方に話しかけ、かけ合いをしてはどのお店からも買い物をしていました。使えるお金も限られてい

るだろうに、彼らの優しさと気配りに感動しました。七人とも、この旅の行きと帰りで全く違う顔をしていたのが印象的でした。奈良に帰ったら、こんな素敵な学生がいたよと、こんな子に育ってほしいと学級で伝えたいと思いました。

【大川小学校に咲く】

四時三十分。今回訪れた大川小学校は、太陽に照らされて一帯をはっきり見ることができました。合掌させていただいた後、裏手に回ると、グニヤリと変形した排水管は、津波の強さや向きを物語っていました。かつてプールだった所には土砂が積もり、草が茂っていました。体育館は基礎部分だけが残り、端には墓石が横たわっていました。ここに響いた声、どんなだっただろう。にぎわっている情景を想像しました。

地元の方から震災当時のお話をいただき、「いつでも学校が見えるように」との願いを込めて親御さん達が植えられた花があると、山の裾に案内していただきました。風が強かったのですが、ワスレナグサとスイセンが力強く咲いていました。好天に恵まれ、無事この時間に来ることができたのも、子ども達が「お母さん達がしたこと、見てつてよ。」と言っている気がしました。そこで、昨年咲いたヒマワリのお話を聞かせてくださいました。普通、太陽の方を向くヒマワリが、ずっと学校を向いていたのだそうです。子ども達の魂

が帰ってくる。ここはそういう特別な場所だと改めて感じました。

【最後に】

今回、参加者同士、石巻の方々との繋がりが強くなっているのを感じました。顔を見て安心でき、気兼ねなく話せて、もう何年も前から知り合いであったような気さえます。おじいちゃん、おばあちゃんがいって、父、母、兄貴、弟のような存在の方がいる。前世で何かあったのではという話も、不思議と納得してしまいます。

また、道中いろいろな方からお心遣いをいただきました。お弁当や夕食、お土産、そしてお見送りに心温まりました。本当に貰ってばかりで、復興地に学ぶ会に対する期待と信頼に他なりません。僕などには身に余る思いです。今後も貢献させていただくことでご恩に報い、活動を通して人間力を磨いていきたいです。

★★奈良県三十代 女性★★

今回、参加させていただく前に関西方面で地震がありました。怖いという思いと同時に「きっとこんなもんじゃなかったんだろうな・・・」という思いでした。その後、浅野さんからのお見舞いメール。浅野さんのお心遣いに、改めてつながりによって自分は支えられていることを感じまし

た。

石巻に到着した時もそうでした。朝七時すぎ、道路で待つてくださったっていた三人の方・・・避難所で出会った方々でした。バスを降りての再会できませんでした。でも、運転手さんのお心遣いのおかげで、とてもゆつくり再会できた気がしました。とても素敵一日の始まりになんといいえない気持ちでいっぱいになりました。たった一瞬、止まれる道路ではないはずなのにとても素敵な思いをさせてくださった三人の方々と運転手さんに感謝です。むねがいっぱいになりながら、いつ、から待つてくださったっていったんだろうと思いましたが、いっこを通るかなんてはつきりわからないのに・・・ここにその時間に来ようと思つたら家を何時にでるんだろう、何時に起きて・・・そう思うと、このつながりに心から感謝しました。こんなつながりができたのは「日本を美しくする会」の方々が石巻に向かうバスを支えてくださったからです。本当にありがとうございます。

金華山に向かわせていただけのことも、「日本を美しくする会」の方々の想いや大谷先生の人を大切にされる想いがつながりをうみ、今回につながったのだと有り難く思いました。金華山には石森さんファミリーも一緒にいただけるといふ事前のお知らせにウキウキしていました。一緒に厨房に立てることが嬉しくたまりませんでした

た。パパさんとママさんの息の合った夕飯の用意、パパさんの魚をさばく姿、いつもはご馳走になる視点で見ることができなかったのもとても嬉しかったです。厨房をかしてくださった金華山方々、ありがとうございます。

翌朝のトイレのお掃除・・・東京チームの方々に感動しました。同じお部屋におられた方が、関西チームを起さないようにお部屋を出られ、磨き始めておられました。あちこちにわかれてきていましたが、たまたま私が目にした場所は一人でされておられました。その背中に「ホンモノ」の気持ちを感じました。どんなことに対してでも「できない」言い訳は考えなくてもできてきます。忙しいからとか、職場が変わったからとか、温度差があるからとか・・・でも、そうじゃないんだなあって東京チームの方の背中を見て感じました。だからでしょうか、心のどこかに抵抗があったはずのトイレに、何のためらいもなく手をつつこんで磨いている自分にちよつと笑ってしまいました。

泊を伴う活動ですが金華山での時間はあつという間です。金華山に向かえる時は必ず牡鹿のれん街に立ち寄ることができるので、それも楽しみなのです。のれん街で再会できる方々のことを思うとすごく嬉しい時間なのです。千々松さんは仙台でのお仕事を切り上げ待っていてくださ

いました。そんなお心遣いが本当に有り難く、言葉では言い表せません。こんなにあたたかい方々との出会いに感謝でいっぱいです。かつて大川小学校の近くでお仕事をされていた「ざっかやさん」の方々は覚えていてくださって、それも有難いことでした。

大川小学校に到着し真っ先に探したのは以前お話をしてくださった方でした。そんな毎回出会うはずがないかと諦めていましたが、偶然また出会え、お話をしてくださいました。その方は毎日、毎日ここにこれお掃除をしたりお花のお世話をしたりされているそうです。毎日欠かさず心を寄せておられる方だからこそ感じられる想いがあり、その想いを受けとれる自分になれるようにと、とても思いました。

今回は地元の方々との再会がとても心に響き感謝でいっぱいになりました。そんな出会いができたのは、こうやって何度も向かわせていただけ、それを支えてくださる「日本を美しくする会」の方々と大谷先生のおかげです。今回も本当にありがとうございました。関西にもどった後、今回のつながりで感じさせていだいた想いをどう生かしていくかしっかり考えていきたいと思いました。

★★★大阪府三十代 男性★★★

【ありがたい毎日の中で】

四月二十六日、JR尼崎をバスで出発し、宮城県石巻市金華山へ向かいました。まだまだ、震災の爪痕が多く残っています。ガレキの量が減っていたり、金華山には新しい施設ができたりと少しずつ少しずつ復興に向かっていくことも感じ、明るい気持ちにもなれました。その一方で、被災者の孤独や寂しさ、生活の苦しさなど、問題がわかりにくく、見えにくく、感じにくくなってきていることも感じました。今後、自分には何ができるのか考えていきたいと強く感じました。

さて、「復興地に学ぶ会」の方々と共に過ごす時間は、自分の心が磨かれ、欲や甘えで傾いている自分の心をリセットしてもらえ素晴らしい時間です。みなさんが、きれいな思いで参加され、そのような中で過ごさせていただくうちに、自分の心がすつきりと、そして、優しくなることを強く感じます。自分一人ではできないことも、たくさんの方の支えの中で、生かされていることを強く感じられる四日間でした。本当に感謝の気持ち一杯です。ありがとうございます。今回の三泊四日の「復興地から学ぶ会」での活動で自分自身が学ばせて頂いたことを三つ伝えさせてください。

【涙の理由】

この三泊四日で自分が予想もできず涙が出て

きた場面が二度ありました。一度目は、行きのバスで弟について話している時です。そして、もう一度は大川小学校へお参りをさせていただいた時です。まずは、弟についてです。僕には、三人の弟がいます。今回は、一番下の弟も一緒に行きました。その弟の誕生日が、四月二十六日でした。行きのバスの自己紹介で、みんなの前で弟について話しているうちに、家族への感謝の気持ちが胸に込み上げてきました。すると、話しながら涙が止まらなくなってきました。この家族があり、今の自分の存在、考え方、生き方があるんだと思うと、もつともつと家族を大切にしたいと思いた自分の頭で考える以上に、自分の体は家族への感謝を感じているようでした。そして、自分自身、そのような感情を再認識させてもらい、温かい気持ちになりました。なぜ、急にそう思ったのかはわかりませんが、きっと、場の空気がそうさせたんだと思います。バスに同行していただいたみなさんの温かい気持ちが自分の気持ちを温めてくれ、涙になったんだと思います。

二回目の涙は大川小学校です。大川小学校では、全校児童一〇八名のうち、七十四名が尊い命を奪われてしまいました。今、六年生の担任をしています。その六年生は、震災当時、三年生でした。大川小学校で三年一組の教室が見えました。いろ

んな思いが頭をめぐりました。

あの日の震災の瞬間まで、この教室で楽しく過ごしていたら子ども達や先生は、次の日をむかえられないとは誰も思っていなかったと思います。その日、被災したのは自分だったのかもしれない。ぼくの大切な人だったかもしれない。いや、今、この瞬間にだって起こるかもしれない。そうした時、「悔いなく毎日を生きているのか？今、自分につながりのある人を大事にできているのか？今あることに感謝しているのか？自分の命を精一杯、生きているのか？被災され、命を奪われた方の分も、その方々のバトンも受け取り、生きているのか？」など、いろんな思いが胸の奥から湧き上がってきました。生かされている自分に感謝しました。そして、目の前の人をもつと愛したいと思いました。子ども達が自分の命を精一杯生きられるよう、自分にできることは何でもしたいと思いました。涙が出てきましたが、その涙は、悲しさ、むなしさ、辛さと喜び、決意、希望が入り混じった、不思議な涙でした。涙が出終わったら、よし、前を向こうと思っていました。

【たくさんのご縁の中で】

今回で十六回目の「復興地に学ぶ会」でした。第一回目と今回の大きな違いは、そこに人との縁を強く感じるということです。最初は、どこか気負って行っていた東北も、今は、「ただいま！」

という気持ちになれます。それは、そこで様々なご縁を頂いているからだと思います。浅野さんや鈴木先生ご夫妻、石森さんご家族、チジマツさん、日野さん、佐藤さん、この震災を機にご縁を頂き、自分の人生の一部になった方がたくさんいらっしゃいます。帰りのバスの中では、藤阪先生からも連絡がありました。

共に復興地に学ぶ会の方からも温かい思いをたくさんいただいています。大谷先生、宮崎先生からは物事の裏を見る目と動き続ける強い信念を、大川小学校にこいのぼりをもってこられていた大木先生の優しさを、若手の先生方からは動き回り、人とながる行動力を、班が一緒になった渡部ヒサさんや富士さんからは掃除をする姿勢や心構えを、初めて参加され、活動されている方からは新しい環境にとびこむ勇氣と忘れかけていた復興地に対する熱い思いを、宮崎先生の想いをくみ取るうと、感じようと謙虚に楽しそうに動かれる大産大の野球部のみなさんの気持ちなど、たくさんの学びを頂きました。

このようなたくさんのご縁を頂き、自分も少しは人として成長できるんだと思っています。これからもみなさんから学び続けたいと思います。

【自然の優しさの中で】

日々、忙しく生きている自分。ゆとりのない自分。忙しいというのは、心を亡くすと書きますが、

まさにその通りだと感じています。忙しいというのは、物理的にはありません。心が自分にしか向かなくなっている状態のことだと自分では感じています。

しかし、この四日間、目に飛び込んできたたくさんさんの自然。豊かな海や山。元気いっぱい緑のきれいな花。ゆうゆうと流れる川。照りつける太陽。吹き荒れる風。キラキラと輝く満月や星。それらからたくさんの元気を頂きました。気持ちが悪されました。

特に、掃除を終えた後の金華山の芝生は最高でした。その場が喜ぶようにニコニコと笑っている気がしました。鹿も寄ってきました。掃除で場をきれいにすると、自分が知らない素敵な力が場に宿り、それが自分にも帰ってくるように感じます。

【最後に・・・】
最後にこの三日間で感じたことを詩にして、終わりたいと思います。

「有り難いこと」

あなたの素晴らしい出会いは
理由もなしにうれしくて

顔晴る（がんばろ）って思えるんだ

たった一度の人生だから

今この瞬間を 懸命に生き

これから先も 笑いながら

共にあなたと 歩みたい

★★大阪府四十代 男性★★

今回で三回目、昨年の四月以来一年ぶりに参加させていただきました。過去一年間というものは自分に言い訳をして、大切なことから逃げていました。しかし、二月九日に開催された人間学塾・中之島の浅野仁美さんの講演で、小学校教師の石崎亜津子さん（通称あつちゃん）から熱心に参加を勧めていただき、ようやく参加することが出来ました。石崎さん、ありがとうございます、ありがとうございます、ありがとうございます、ありがとうございます。石崎さんの人を惹きつけて、人を引き込む力強さにあらためて感謝しました。

私は一般の会社員ですが、子どもたちの教育にとっても関心があり、教員免許の取得へ取り組んでいるところでした。しかし、今回の参加により思い知らされたことは、頭で考えるばかりでトイレ掃除等の実践ができていないこと、何よりも全身全霊で取り組んでいない自分がいるということでした。まだまだ出来ることがたくさんあるのに、余力を残していた自分に気づくことが出来ました。子どもたちに伝えたいことがあつて教職を志していますが、今の生き方では子どもたちに何も伝わりません、今の生き方では子どもたちに何も通じてその思いが高まっています。この三泊四日の活動の中で皆様の体験発表を聴かせていただき、それが確信に変わりました。皆様の気づき力、感動

するお気持ちの強さから、とても一生懸命取り組まれていることがヒシヒシと感じられました。本当に今の自分の生き方を恥ずかしいと心から思い、深く反省しました。「心不在焉、視而不見、聽而不聞、食而不知其味」（こころ、ここにあらざれば、みれどもみえず、きけどもきこえず、くらえどもそのあじをしらず）と昔の人は云われましたが、正にその通りだと思いました。

参加者お一人お一人の何気ないお心遣い、無駄のない丁寧な動作、他人を思いやるお心の篤さ（例えば、水野智加さんは万が一逢えた時に備えて沢山の人へお土産を持参されます）、復興地の小さな状況変化など、私には見えていないお話をたくさん聴かせていただきました。私以外の参加者の方々が、今日・今・この瞬間をどれだけ大切にされているのか教えていただき、涙が出るくらいに感動しました。鍵山先生や大谷先生が皆様へ伝えようと血のにじむような努力をされている大切なことを、わずかでも感じて、ほんの少しでも受け取ることが出来るようになりたいと心底思えたことが今回復興地から持ち帰った大切なお土産です。

また、私は「子どもたちに教える」「子どもたちを育てる」という驕った気持ちがありました。鍵山先生や大谷先生・久井勝明様をはじめとした方々の後ろ姿から、そうではないということを教

えていただきました。「子どもたちへ大切なことを伝える」という気持ちへ少しずつ変わっていきたいと思いました。

それは、大阪産業大学野球部の若者七名からも教えていただきました。久野修平さん・織地智大さん・田中想至さん・森嶋佑太さん・窪田祐規さん・柴田誠士さんは、言動と行動が美しく、何よりも目がキラキラと澄んでいます。宮崎監督の「生徒に伝えたいこと」がシツカリと伝わっていることを拝見させていただきました。自分の子どもと変わらない年齢の若者から学ばせていただき、敬意を感じるとともに、このような若者に恥ずかしくない生き方を心がけたいと決心出来たことは、本当にありがたいことでした。宮崎先生、参加された野球部の皆様、ありがとうございます。最後になりましたが、私たちを復興地へ連れて行って下さった神姫バスの新西様・亀田様、日本を美しくする会の皆さま、そして、復興地で温かく受け入れて下さった石森様のご家族、浅野仁美様、鈴木様御夫妻、金華山神社宮司の日野様、また、現地で一緒に活動していただいた東京を美しくする会の皆さま、活動を記録していただいた渡辺様、大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。

★和歌山県三十代 女性★

広大な海、神々しい山、神秘的な満月、降り注ぐ太陽・・・、金華山の大自然を全身全霊で感じることできた貴重な経験は忘れがたいものとなりました。そして大自然がもたらす恩恵と、相反する自然による災害。この大自然の営みに翻弄されながらもこれからも人々は、叡智を振り絞り生き抜いていくのだらうと思います。そんな自然の豊かさと悲しい歴史の残る東北への支援をずっと継続していこうと思える気持ち、今回さらに強くなりました。

二十七日の夜に「今後の被災地とどう関わっていくか」という題目でグループ別のディスカッションをしました。私たちのグループでは今回初参加という方が多かったのですが、「現地に来て知ることができてよかった」「帰って友達に伝え様と思った」「予想以上の怖さと恐ろしさを感じた」「とにかく今後も参加したい」という積極的な意見ができました。また、「少しでも関わった場所に再び訪れることに意味があるのでは」「離れた距離でも繋がれる嬉しさがある」といった意見もできました。その中でも光岡先生が「特別意識を持たなくてもボランティアに参加できたら」とおっしゃいました。

最も大きな学びの言葉になりました。そして最後にまとめた「日常の活動をここへ、ここでの活

動を日常へ」という言葉は今後の私の指針となるであろうと思います。

毎回、この復興地に学ぶ会で、学ばせて頂くことは皆様の「日々の生き様」です。ふとした一言や行動からその方の普段の生き方が伝わります。年齢や職業は関係なく、ハツとさせられたりドキッとさせられたり頭をガンと殴られ!？ることにたくさんです。金華山での掃除、バスの中で素晴らしい自己紹介や体験発表、人との繋がりが、他人に対しての心使い、アンテナの張り方・・・。半人前な私は、本当に毎回多くの貴重な学びを頂きます。

大谷先生をはじめとする大阪チームの皆様、東京チームの皆様、神姫バスの運転手さん、現地の石森さん一家、浅野さん、鈴木ご夫妻、佐藤さん、阿部さん、金華山神社の神職の方々、調理場のスタッフの皆様、牡鹿のれん街の皆様、フェリーの運転手さん、大川小学校で貴重なお話を頂いたり、差し入れやお土産もたくさん頂きました。全ての方々に心より感謝いたします。ありがとうございます。そしていつも我儘な私を快く送り出してくれる頼もしく優しい家族に何よりも感謝です。

学ばせて頂いたことを、日常の活動へ少しでも活かせるように、普段の生活の大切さ、丁寧さ、心がけを少しでも今よりも高めていけたらと思っています。そしてまたその日常をもって大好

きな東北とずっと関わっていったらと思います。

帰ってきてからの一週間は勤務先の小学校で職員やいろいろな学年の子どもたちと今回の話を伝えさせて頂きました。皆さん真剣に耳を傾けてくれました。私を感じた大川小学校でのお話もさせて頂きました。家族と会えること、学校へ通えることは決して当たり前に続いていくという約束はないということや今後迎えることの可能性の高い南海トラフ地震についても話し合いました。私は今年度、音楽専科なので授業でお話しさせて頂きました。授業の最後に東北の方角を向い「東北のお友達や、亡くなったお友達に届くように歌おうね。私たちも応援してるよ、って伝えようね」とすると、どの学年も泣きながら歌ってくれた子が何人かいました。子どもなりにいろいろな思いが溢れたのかなと思います。その姿を見て私ももらい泣きをしてしまいました。

「友だち」

きみのこと しらなかつたよ

おなじ このみち かよりのに

きみのこと しらなかつたよ

でも きょうから ともだちだね

わらうとき たべるとき

はしるとき うたうとき

いっしょに すごす

いろんな ときが

とても たのしみだね

きみのこと しらなかつたよ

おなじ にわで あそぶのに

きみのこと しらなかつたよ

でも きょうから ともだちだね

さみしいとき くやしいとき

たのしいとき うれしいとき

いっしょに すごす

いろんな ときが

とても たのしみだね

3年生「学年の歌」より

★★大阪府四十代 男性★★

復興地に学ぶ会に、今回初めて参加させていただきました。東日本大震災の直後から、私は震災ボランティアには是非行きたいと願っておりまして、私の仕事は、金曜日の夜と月曜日が極端に忙しく、中々参加することが出来ませんでした。あれから二年が経過し、連休に合わせ、『復興地に学ぶ会』に参加することが出来ました。震災から丸二年、はたして復興支援活動は必要なのか、疑念をもちながらの参加でした。四日間のメニューを終え、当初の疑念は払拭され、今後も形を変

えてでもよいから、東北地方の皆さん方との交流、支援活動は必要だと思いました。大阪便教会の大谷先生を中心に続けられた活動が、東北の方々、関西とを固い絆で結び、本当の意味で、震災に遭われた方々に心を寄せる活動が共感を得ていると思います。

【門脇小学校】

初日、門脇小学校では、火事で焦げた校舎を遠目に、学校前の住宅街の跡地を見て回りました。学校前の住宅街は、基礎だけが残り、平原のようになっています。震災が無かったように生活している自分が嫌になります。現地に入ると、がれきの撤去はほとんど終わっており、ぽつんと家が建っています。復興はまだまだという感じが強く、個人の生活や仕事、心の空虚感を埋めるまでにはいたっていないのではないのでしょうか。

【金華山】

初めての金華山、山の斜面が所々崩れ痛々しいです。これでも土木工事や福井のボランティアのおじさんのおかげで、復旧が進んでいるようです。二年が経過している感じからは遠い（復旧が進んでいない）ように思いました。

一日目は阿部さん達東京組と合流し、公園で鹿の糞や落ち葉の清掃をしました。二トンのダンブカー十五回分の量を掃除しました。

風邪が強く、せつかく運んだ落ち葉が飛ばされ

たり、一時的に集めるブルーシートが飛んだり、ハプニングがありました。前日の強風と大雨で散ってしまったけど、少し残った桜の花と奇麗な景色に癒されながら順調に作業をしました。鹿の糞や落ち葉でいっぱいになっていた公園が、緑の芝生が青々として、すっきりしました。宮司さんは、公園に鹿が戻ってきて良かったと喜んでおられました。

お昼は『宮城掃除に学ぶ会』の太田さんが差し入れてくださったお弁当を頂きました。

夕方になり女性陣は掃除の手を休め、『仮設市場おしかのれん街』の石森さんご家族といっしょに手料理を作っていました。クジラの唐揚げ、鯉のたたき、鳥のもも焼き、あたたかい心のこもったお料理は、私たちの会話を弾ませます。石森さんは私達に会うため市場の稼ぎ時である土日を返上し、金華山の清掃活動に合流しました。お弁当を提供していただいた太田さん、パンを差し入れていただいた宮崎先生もそうですが、私達は幸せをもらってばかりです。

夕食会では写真家の渡邊翔一さんのスライドショー。石森さんご夫妻は震災体験を話してくださいました。被災地でも被害の大小で違和感があったりする等、率直にお話しをしていただきました。石森さんは「震災がなければ関西の人たちと知

り合いになれなかった」「来てくれるだけでうれしい」と優しい言葉をかけてくださいました。私が逆の立場ならこのような言葉を言えるでしょうか。石森さんは、震災で嫌なことばかりだったけれど、前向きになれるよう自分に言い聞かせているようでもありました。

翌日、なにか恩返しができないかと思い、早起きし宿のトイレ掃除をさせていただくことを誓いました。

夜になり、すっかり暗くなった金華山の頂上から、これまで見た事のない、明るいお月さまが現れ、明るさは地面に人の陰が出来る程です。プラネタリウムのような満天の星空に流れ星を見る事も出来ました。西宮の久井さんが鎮魂の笛を披露してくださり、石森さんご家族、私たちのハートもあたたかくなりました。きつと天国に召された人達もこの音色を聞いて喜んでいらっしやると思います。

翌日、早朝四時半に起きると、東京組が早起きして宿のトイレ掃除をしていました。私たちは、西宮の久井さんと京都の坂本さん、小峠先生、宇田さん達といっしょにトイレ掃除をしました。

短い時間でしたが、坂本さんから「愛原さん二百点よ」とお褒めの言葉をいただき、朝からすごく気分が良かったです。素敵な言葉を良いタイミングでもらうと元気になります。自分も坂本さん

のように同僚や家族に褒める言葉をかけないといけません。

翌日は、五月三日の初巳大祭の準備の為、船着き場からの道路、石碑の周りの清掃を行いました。途中石ころの多さと、松葉の葉を片付けるのがチクチクして痛かったのですが、心が折れそうになりましたが、キムテリョンさんの冗談とも本気ともとれない、言葉のマジックに癒され、掃除をしながら皆で大爆笑。大谷先生の悪口と言いながらも、尊敬している事は隠せません。キム先生が授業をすると楽しいということが伝わりました。

石碑の周りを掃除して、もう終わりかなと悦にひたると、最年少参加、高二の女の子が、石碑の文字の凹部分に土が詰まっているのを見つけました。たまたま落ちていたナイロンのロープ等で綺麗にしました。この気付き本当に素晴らしかったです。

みんなで綺麗にした石碑の周りは初巳大祭でも恥ずかしくありません。この地を訪れる観光客にきつと喜んでいただけると思います。

楽しかった金華山のお掃除はあつという間に終わり、タクシーボートで本土へ出発。船着き場で私たちが見えないこところまで、大きな手をふっていたいたヘルメットのおじさんや宮司さん。お二人の気持ちは本当に素晴らしく、今でも目に焼き付いています。

【大川小学校】

この地の雰囲気は今迄の場所と明らかに違います。現地に降り立った瞬間、ゴーという木が揺れる音、カラカラと風車が回る音が亡くなった児童の叫び声のよう、亡くなった先生たちの無念さが、私の心にも伝わります。明るいうちに入ったので、小学校の周りを見させていただきました。基礎だけになった体育館、土砂がいつぱいのプール。体育館では大川小で出来なかった卒業式が執り行なわれ、プールでは子ども達が楽しそうに水泳の授業をしている絵が見えます。

普段、大川小の祭壇の手入れをしているおじいさんに震災の体験を聞かせていただきました。最後に、観光地のようにピースサインをして写真を撮る人になるな、タバコの吸い殻を練香の台に捨てるような人になるなと忠告を受けました。おじいさんは、高2の女の子の顔を見て、「悲しそうな顔をしているな、これでも持って帰りなさい」と、大川小の山との境に植えている花を土ごと渡していました。おじいさんは彼女にある想いを重ねたのではないのでしょうか。

昨年の夏に保護者やボランティアの協力で、小学校の敷地の隅から育てたひまわり。通常は太陽の方向を向くのですが、ここのひまわりは学校の校舎の方向を向くそうです。おじいさんから、嘘か本当かわからんが本当の話しと聞かせてい

ただきました。

【仮設市場おしかのれん街】

ここではクジラの歯で彫刻を作る千々松さんのお店で、お話しを聞かせていただきました。気さくにコーヒーを入れていただき大変うれしかったです。千々松さんのお父さんが、天皇にクジラの歯の靴へらを上納した話し、震災の体験を語っていたいただきました。お昼にいただいたお寿司も最高に美味しかったです。

もつと関西からも石巻に観光に来ていただいて、『仮設市場おしかのれん街』を繁盛させて欲しいと思いました。ここで石森さんご家族とお別れ、ご主人の誕生日のお祝いです。前日に作った寄せ書きをプレゼントしました。皆でハッピーソングを歌いました。石森さん一見恐いお父さんですが、本当にうれしそうにしてはりました。

【上品（じょうぼん）道の駅】

こちらには、先に浅野さんや門脇小学校の元校長の鈴木さんとご主人が到着されていて、食事しながら鈴木先生とお話しすることが出来ました。私が掃除に学ぶ会に入ることになったきっかけを聞かれ、明瞭に答えることが出来ませんでした。後で葉書に書いて送ろうと思います。

ここでは、私が掃除に学ぶ会のファンになるきっかけを作った、大阪のヒサさん、京都でいっしょに掃除をしたサノ先生、私が誘った宇田さん等、

関係の深い人たちが一度に集まり、神様が私たちに鈴木先生に会わせようとしたことがわかるようなキャスティング不思議な出会いでした。

【大阪に帰って】

大阪に帰ると不思議、ちゃんと建っている家々が無くなって、基礎だけになっている絵が見えます。家やマンションが無くなり、遠くを見渡せる異様な街の姿が見えます。火事なのか津波なのかわかりません。

この感覚、現地に行かなければ解らない感覚なのでしょいか。当たり前のように生活が出来る幸せ、命があるからなんでも出来る。

私は自治会にも携わっており、今回の体験で得た経験を生かし、住民の命を守ることが出来る生きた訓練をしようと思います。

東北の皆さんのおかれている状況を私たちの周りに伝え、復興するまで東北の皆さんに心を寄せる活動をしたいと思います。また、機会があれば『復興地に学ぶ会』に参加したいと思います。貴重な体験をさせていただきありがとうございます。

★大阪府二十代 男性★

【謙虚なお姿】

今回も多くの方のお姿から学ばせて頂きました。坂本さんのお姿。謙虚であられて、そしていつも我々に丁寧にお気遣いをしてくださります。坂本さんの温かく包み込むような雰囲気。坂本さんに何度も何度も「先生、ありがとうね」と言っ

【命】

大川小に行かせて頂き、手を合わせて頂きました。新しい石碑がありました。そこには亡くなられた方のお名前と年齢が刻まれていました。十歳と刻まれているのを見て、分かっ

で、目の前にいる子どもたちを全力で愛することを誓いました。

【石巻の方々と出逢って】

金華山には、牡鹿のれん街の石森さんご家族も来てくださり、夜にはご馳走を頂きました。最高に美味しかったです。石森さんが「来てくれるだけうれしい」と仰って下さいました。なので、「会いに行くだけでいい」そう感じて

最後、今回も多くの方に支えて頂きました。「している」のではなく、「させて頂いている」ということを強く感じました。大谷先生が、その根本を忘れてはいけないと言っておられました。皆様のお姿が、何も考えないと傲慢になっ

最後に、これまでの復興地に学ぶ会に出逢った皆様への気持ちを詩にしたいと思います。

「出逢えて」

心つながり深めるために
人は出会うんだよ
どんな悲しみをも包み込んでくれる
どんな寂しさも大丈夫と言ってくれる
目には見えない優しさを
そっと寄り添うように私にくれる
そんなあなたに出逢えて良かった

★北海道三十代 男性★

この度は第十六回復興地に学ぶ会に参加させて頂いた

振り返ってみますと、今回はいつも以上に感じたことがあります。それは今までに参加させて頂いた二回の学ぶ会で活動させて頂く中で、特に一日の最後、模造紙を用いてグループで感想をシェアするとき

た。どうということかと申しますと『自分には感じる心や気遣い、感謝の気持ちに圧倒的に足りていない』ということですよ。

学ぶ会に参加される方々は皆素晴らしい方ばかりで、常に自分以外に目を向けられている方ばかりです。『他喜』の心というのでしょうか。アテナが高く、周りで起きている出来事を想い豊かに受け取られ行動に移される方ばかりです。一緒に活動をさせて頂くと学ぶことばかりで居心地がとても良いです。逆を申しますと、私はしてもらってばかり、して差し上げられていることが何もありません。

「自分は一体何をしに、東北まで足を運んでいるんだろう」、「自己満足」、「何もしていない」、「何も無い」、中身の薄っぺらな自分に気づかされます。

よかれと思って行動したことでも、実はかえって迷惑を掛ける行動であったことも多くあります。まだまだ私には学ぶべきことがたくさんあると感じます。

東北の地に降り立つと、大阪の皆さんをご支援下さる方が大勢いらつしやいます。会いに来てくださる方が大勢いらつしやいます。何て素敵なことなのだろうと思います。それはこの復興地に学ぶ会の想いの量であって、北海道から私が参加させていただいている、心惹かれる大きな理由の一つ

です。いつの間にか、気づかないうちに、大きなことばかりを追い求めている自分がいます。ですが、小さなことを積み重ねて大きく育てていくことの方が大切なのだと気づきました。

これからも参加させていただく機会をつくり、学び続けていきたいと思えます。この度は本当にありがとうございました。

★★大阪府四十代 男性★★

このたびも、日本を美しくする会のみなさまのご厚意で石巻まで同行し、金華山のお掃除をさせていただけましたこと、心より御礼申し上げます。以下、私の感じたことを述べさせていただきますが、長きにわたる拙文となりますことをどうかご容赦下さい。ご一読いただけましたら、幸甚に存じます。

【喪失した悲しみ】

人は何かを失ったとき、その悲しみから立ち直るためにはどうすればよいのでしょうか。

私たちの日常生活において「失う」もの。それは身の回りのものであったり、商売道具であったり、大小さまざまな所持品。さらには失業、離婚や離別といった形で、愛着の深い仕事や家族、友人、場合によっては住処すら失うこともあります。また、病気や事故によって身体技能を逸失してしま

う方もおられます。しかし、何よりも大きな衝撃となるのは、命そのものの喪失かと思われれます。それらのすべてを一举に引き起こしたのが東日本大震災です。大自然は命という命を、家族どころか学校ごと、集落ごとの広汎な範囲において根こそぎ奪いました。その被害の甚大さが被災地復興の足かせとなり、三・一一から二年余り経った現在も、仮設住宅（見なしも含む）にお住まいの方が三十万人近くおられます（平成二十五年四月現在）。

そのような方々がいつの日にか、「喪失」の悲しみから立ち直るには、どうすればよいのでしょうか。

【自己の人生を振り返って考える】

自らの人生においても、取り返しのできない「喪失」はいくつかございました。思い出すたびに後悔の念にさいなまれる、そんな過去を離せないままにいる自分がありました。しかし、私は今こうしてみなさまとともに前を向いて歩いておられます。それはなぜなのだろうか、と往路のバス車中でずっと自問しておりました。

―喪失というものを傷痕に例えるとすれば、その傷口の上に適切な薬草をあてがい、温かい「手当て」をすれば、必ずや治癒するに違いない。そして、辛抱強い治療の末に得られた皮膚は、以

前のそれよりもずいぶん強靱なものになって
いるはずだ。――

私自身の取り返しをつかない「喪失」からまもなくして、東日本大震災が起りました。そして、大谷育弘先生と宮崎正史先生を中心に、復興支援のためのさまざまな活動がおこされるようになりました。私がお手伝いをさせていただけると、私がお手伝いをさせていただきますと、「喪失」によって時間的な余裕が生まれたからでありました。「喪失」していなければ、復興支援は物理的に無理なことでした。

現在、「復興地に学ぶ会」の石巻での活動は十六回目となります。その間、一緒に活動させていただいた同志のみなさま、避難所やボランティア・センター、のれん街などで出会ったみなさまとのご縁は、計り知れないほど深遠で、今の私にとってかけがえないものです。

――もし、時計の針が戻り、取り返しをつかない「喪失」をまぬがれたとしたら、後悔の念に日々さいなまれることもないだろう。しかし、それと同時に、現在いただいているみなさまとの有難いご縁と幸せが失われるのだとしたら、どうだろうか。

今となっては、時計の針が戻ってほしいとは思いません。今のままが幸せで心地よいのです。有難いのです。嬉しいのです。日によっては、「後悔の念」が心の中に強く吹き荒れることもあります。しかし、そんな日には泣きごとを言いたい気持ちを抑えて、少し強がってでも言うのです――
「今の方が断然いい」と。

――どうやら、私にとっての「菓草」は復興地に学ぶ会であり、参加されるみなさまの温もりこそがまさにその「手当て」だったようです。「喪失」したからこそ、今の自分がいるのです。「喪失」したからこそ、みなさまとの奇しきご縁をいただき、前を向いて歩けるようになったのです。

【石森さんの心意気】

石森政成さんは「旬魚旬味いしもり」というお店を開いておられます。私たちは、そのお店のある鮎川浜の「おしかのれん街」で石森さんとのご縁をいただきました。同志の小峠大地先生はその後も、石森さんご一家と家族ぐるみのお付き合いを続け、そのご縁を大切に紡いで来られました。その結果、今回私たちが金華山で活動するというところで、わざわざ同船して一泊して下さり、夕食を振る舞っていただけることとなりました。腕に力をかけておつくり下さったその料理は、舌に心に滲み入るものでした。

夕食後には、日本を美しくする会の鍵山さん、

阿部さんからの貴重なお話を伺うとともに、石森さんご本人からの体験談をお聴きすることができました。三・一一当日の行動、避難所での食生活（塩と砂糖ひとさじずつの食事）など―思い出したくないこともあるに違いありません。にもかかわらず、震災直後の生の記憶を搾り出すようにして話して下さる石森さんの、その熱い心意気に、私は涙が止まらなくなりました。感動、感激、感服：言葉が見つかりませんでした。ただただ、心の中で合掌するほかありませんでした。

そんな石森さんが話を結ぶかのように、ぽつりとおっしゃった言葉がありました。「亡くなった方には申し訳ないのですが」と断われたうえで述べられました。

――震災があったからこそ、こうしてみんなとのご縁がいただけたのだ、と。

衝撃的でした。

石森さんも「時計の針」を戻したくないと思えるようになったということでしょうか。それとも、そう思わないことには前を向いて歩けないということでしょうか。少し強がった部分も含めてのご発言なのでしょうか。その日、その日、瞬間、瞬間でその気持ちが変わることはないのでしょうか。

おそらくは、そういった気持ちのどれもが混沌として融合した状態かと拝察いたします。しかし、その発言が真意であろうと強がりであろうと、それを石森さんご本人の口からお話しいただけるようになったということは、心の復興の第一歩であるように思われてなりません。

石森さんご一家の心意気に敬意を表するとともに、心より感謝いたします。

私たちにできること

石森さんが「今の方がいい」と思えるようになられたのだとしたら、それは復興を応援する私たちにとっての光であり、希望です。これからも、もつともつと、そう思い続けていただきたいと思います。

—今の方がいい。

—今こそ幸せ。

—今が最高。

石森さんがいつか心からそう思っていただけのようにするために、私たちには何ができるのでしょうか。

何かを失った人が悲しみを越え、前を向いて歩けるようになるまでに必要なものは、人の温かみに違いありません。何人もの方々の誠心誠意の温か

みがいくつも、いくつも積み重なって、やがては凍えた心の氷を溶かしていくのでしょうか。

それゆえ、私たちがこれからもずっと続けていくべきことは、石森さんとの誠心誠意のおつきあいではないか、と思われてなりません。石森さんが私たちのご縁に喜んで下さるまで、心を寄せさせていただくこと—喜んで、感激して、やがては感動して下さるようになるまで。

石森さんと同様、これまで石巻でご縁をいただいたすべての方に対して、誠心誠意のおつきあいをさせていただくこと、それこそが復興への道しるべに違いありません。

【今回の「帰石」の総括】

あえて「帰石」と書かせていただきました。

もはや私たちにとって、石巻は第二の故郷です。鹿妻でのご縁、渡波でのご縁、門脇や蛇田、釜でのご縁。また雄勝でのご縁や牡鹿半島、金華山でのご縁。牡鹿半島では、鮎川浜のボランティア・センターを拠点として、鮫ノ浦、谷川、十八成浜、小淵浜、と実にいるいろいろな場所で活動させていただきました。ですから、やはり石巻は第二の故郷です。

今回の帰石では、震災発生四ヵ月後の鹿妻小学校の避難所でご縁をいただきました阿部ともえさん、佐藤サエ子さんと再会することができました。国道三九八号線の石巻女子商業高校前の辻で、

一分足らずの間だけお会いし、お話しすることができました。お二人は私たちのバスが通るのを、その辻で朝の七時からずっと待っていて下さったのでした。元氣そうなお二人の顔を拝ませていただき、胸がいっぱいになりました。

金華山では、黄金山神社をまもる神職の日野さんと再会することができました。大きなお祭りのたびにお掃除を依頼して下さることは、私たちにしてみれば最幸の喜びです。ご縁をいただいて今回も同志とともに金華山に導かれたことを、心の底から感謝いたします。

金華山から牡鹿半島の鮎川浜に、海上タクシーのお世話になって戻って参りましたら、髪の毛の長いTシャツ姿の男性が金槌を持って、黙々と船着き場の大工仕事をされていました。遠藤太一さんです。震災直後、東京から単身で鮎川浜に乗り込み、ボランティア・センターを立ち上げて、役所の手が及ぶまでずっと支援にご尽力なされた方です。私たちが牡鹿半島でボランティアをさせていただきます。私たちが牡鹿半島でボランティアをさせていただきます。毎回ひとかたならぬお世話になりました。お忙しいようでしたので、握手をして、少しお話をし、すぐにお別れしました。それだよいのだと思います。

「おしかのれん街」では鯨の工芸品をつくられている千々松正行さんと再会できました。前回お会いしたころに比べてずいぶん表情が柔らかくな

っているようにお見受けいたしました。流れた時間の長さをふと感じました。千々松さんは私たちに珈琲をふるまっても下さり、工芸品の陳列されたガラスケースをはさんで、温かい時間がただ流れていきました。石森さんも私たちとともにのれん街に戻ってシャッターを開け、店の中で休憩させて下さいました。

今回、のれん街では新たな出会いもございました。十八成浜で被災された酒店の沼倉憲一さんと、作家の阿部邦子さんです。沼倉さんはのれん街で酒店を開き、そこで阿部さんの著書も陳列販売しておられました。私がお本を購入しようとする、レジの横に座って煙草を吸っておられたのが阿部さんでした。その本の名も『がれきに咲いた花』—このご縁がどのように花開いてゆくのか、これから楽しみでなりません。

すべての活動を終え、いつものように夕食と風呂のため、道の駅「上品の郷」に立ち寄りました。そこでも私たちのバスが着くのを長い間お待ち下さっている方がおられました。鹿妻小学校の避難所（最大で一六〇〇人収容）の世話役を一手になされていた浅野仁美さんと、校内から一人の犠牲者も出さなかった門脇小学校の元校長、鈴木洋子先生、そしてその夫でありラジオ石巻の取締役相談役をなされている鈴木孝也さんです。この再会もまた、言葉では言い表すことのできない喜び

でした。理屈をまったく越えた喜びでした。賜生のご恩、その妙味を味わう喜び—生きていてよかった、と。

こうして、今回も最幸の喜びを噛みしめて活動させていただきました。また時間をみつけて、仕事の合間に帰石させていただきます。観光ではありません。わが故郷—石巻に帰るのです。

【おわりに】

最後になりましたが、私たちとともに支援活動に参加して下さいている神姫バスの運転手、新西さん、亀田さんに感謝申し上げます。国道三九八号線沿いで阿部さんと佐藤さんにお会いする際に、わざと速度を落とし、一旦停止して下さいました。再会の時間が少しでも長くなりますように、との心配りかと存じます。雪道、悪路、渋滞、どんな状況でも、安全かつ時間通りに目的地まで私たちを運んで下さるお二人こそ、まさにプロフェッショナルの心意気。頭が上がりません。

今回は同行できないからということでパンの差し入れを下さった宮崎先生、作戦会議のたびに美味しい料理と場所を提供して下さいるピネ亭のアボジ、オモニ、貴坊。まだまだ、他にもお世話になった方がたくさんおられるに違いありません。お手配、ご尽力下さった多くの方々の敷いたレールにただ乗せていただいているだけだということに気がつかず、まことにおめでたい自分を

思うとき、顔から火が出るほど恥ずかしい気持ちになります。

しかし、それでも前を向いて歩くほかございません。金華山の船着き場は改築工事が完了し、前回倒れていた黄金山神社の石柱碑も、御旅所も、石灯籠もすべて修築されました。金華山も復興に向かって着々と歩を進めているようです—いつまでも過去に苦しんでいてはいけないよ、と教えてくれているかのように。

こちらも負けてはいられません。
顔晴ります。

ありがとうございます。

ありがとうございます。

ありがとうございます。

合掌

★★兵庫県六十代 男性★★★

心配していた雨もなく寒くもなく、昨年のように満開のサクラこそなかったけれど対岸牡鹿半島を望む金華山は春たけなわ私たちを温かく迎えてくれました。

今回の「学ぶ会」で大きく感じたことは「心と心の呼応」ということでした。回を重ねる被災地に学ぶ会、毎回、地道に且つ着実に被災された方々との心の絆を深めてこられました。門脇小学

校で早朝から私たちを迎えてくれたお三方、鈴木先生、朝野さん、わざわざ金華山まで渡って夕食の料理をふるまってくださった石森さん、その他多くの皆様、この会が単なるボランティアであれば素通りで終わった方々ばかりです。その人たちの心を大きく動かしたものは参加された方々一人ひとりが持つておられる素晴らしい感性そして温かい思いやりの心ではなかったでしょうか。その心が一台のバスに凝縮され、金華山の満開の桜に勝るとも劣らない大きな花を咲かせたように思います。大震災で大きく傷ついた人々の心を揺さぶり、石森さんがいみじくも言われた「大震災があったからこそ」の感慨は、大震災を乗り越え千里の距離を超えて結ばれた「大きな心と心の呼応」の結実であったように思われます。

私自身得難い貴重な体験をさせていただきました。二日間来る祭礼を控えて広い敷地の清掃作業でしたが、とくに二十八日は鹿の糞の除去作業で、ひたすら掃き掃除に徹した時間でした。自分はこの時ある工夫をしました。臍下丹田に氣を込める、丹を練る、氣を練る工夫です。人間には氣というものがあって始終あちこち動き回って一所不住です、これを丹田に落として動かさない工夫です。普段も思い出したら行うことですがすぐ忘れてなかなか身に付きません。この度は雄大な自然の中にあつて淡々と箒を運ぶ中でこれを少

しは体感できよい気分になりました。禅宗に限らずお寺や神社では修行の一つとしてはき掃除や拭き掃除を大事にしていますが、私の頭には京都一灯園の西田天香さんの庭を掃く写真が思い出され清掃の大事さをあらためて思い知らされたことでした。

今回大谷先生を始めお世話いただいた先生方、そしてその呼びかけに応えて参加された感性豊かな方々、その方々と一緒にさせていただいたことと大変嬉しく光栄に思い感謝の気持ちでいっぱいです。御礼申し上げます。ありがとうございます。

★★大阪府四十代 女性★★

【はじめに】

昨年の夏に初めて参加させていただき、今回が三回目の参加となります。

私がこのバスに乗せていただくようになったのは、地震が起きて1年がすぎたからです。ですから、被災当初の「におい」を経験したことはありません。地震当初の悲惨な現場を見たことはいのです。そんな私がどこまで心をよせ、皆様から生き方を学べるだろうか？回を重ねる毎に考えさせられ「自分にできること？」と、模索しながら参加させてもらっています。また、回を重ね

るたびに、共にバスに乗った同志の方々やその支援をしていただいている方々、また、復興地に生きる方々に恥ずかしくない生き方をしたい！その思いも強くなってきました。

【初日】

今回は金華山のお祭りに向けての清掃活動を主に行いました。一日目はずっと学校の子どもたちのことを考えていました。掃除の時間はおしゃべりをせずに、一所懸命自分の持ち場を掃除することを教えてきています。だから、私も黙々と掃除を行いました。楽しみながら掃除をするほうが正解なのかな？どうなんだろう？自分は子どもたちに黙って掃除をする方が、確実に掃除のスピードもあがることを教えてきています。でも、なんでも楽しめるって素敵やんなー・・・だけでも笑って話すだけが楽しんでいることではないんだよねー・・・んーどうなんだろう・・・と、一人考え込んでいましたが、正解はないんだろうなーっと、結論づけました。ただ、今後は掃除の時間の基本は教えているんだから、あまり口を出さずに子どもたちが笑い合っているときには、その姿は黙ってみてみよう！そう思いました。この場所において、多くの素晴らしい仲間がいるからこそ、考えられることだと思えます。復興地をお借りして生き方を学ぶ！それが一つできた気がしました。

昼からは夕食作りです。ここでは大いに笑いながらお料理のお手伝いをしました。石森さんと一緒に調理をしながら「不思議・・・」と、思うところが何度かありました。私はなぜ今ここにいて、石森さんとこんな風に話をして、味見をしながら一緒に笑っているんだろう・・・そんな想いが何度か押し寄せました。人の縁は本当に不思議だなーと、地震がなかったら私はきっと石森案と出会うことはなかっただろうし、古松先生に出会わなければ、私はこの場所にさえいない・・・あの時、あの場所で・・・と、何度も縁の深さと不思議さがありがたさを味わっていました。

夕食後は石森さん夫妻が被災当時のお話をしてくださいました。気丈にお話をされていました、思い出したくない、話したくないこともあっただろうと思いつつも、一方で私たちに伝えたい、そんな想いもあるのだろうと、勝手に想像し、聴かせていただきました。石森さんと親交の深い小峠先生から、息子さんが心に秘めていたものなど聴いたことがありましたので、この話を一緒に聴いているお子様二人のことがとても心配ではありました。でも、ご家族四人がそろっている姿を初めて見たとき、私自身がとても幸せな気持ちになりました。だから四人そろっているから、子どもたちは安心して聴けるのかもしれない。勝手にそう思っていました。お話の中で、智子さんが

子どもたちどの時間を大切にしたい、そう話してくれたときに、私もわが子どの時間ももつと大切にしなければ・・・今、一緒にいられることを当たり前前だと思っただけでいい。当たり前前の時間なんて本当はなくて、そう思ってしまう日常にもっと感謝して、共に過ごす時間を大切にしなければいけないと思えました。

夜にはみんなで月を見て、星を見て、鎮魂の笛の音を聴きました。同じ時間、同じ場所から同じ空を見上げ、きれいだと言えること。同じ音色を聴きながら、ご冥福をお祈りすることができたあの時間は、言葉で言い表すことができません。

【二日目】

翌日も午前中清掃活動を行い、午後からは牡鹿のれん街へ行かせてもらいました。お店の方々がみんな元気そうに話されます。こちらが元気をいっばいもらえます。その陰にはどんなご苦労があり、どんな悲しみやつらさを抱えておられるのだろう・・・そう思うと心は痛みました。石森さんは昨日私たちの夕食の準備をしてくれ、朝も活動に参加されていたので、お店を閉められています。のれん街の外で座ってお話をさせていただきますが、その姿に、温かさ優しさ強さを感じることができました。この時初めて、私がここにいることの効果？成果？意味がある気がしました。「みんなが来てくれるだけでいい。遊びに来て！」昨

日そう話されていたことを思い出して、こののれん街の人々もご苦労や辛さがあっても、石森さんが言ってくれたように、私たちがここへ来るのが、生きがいややりがいや元気につながっているんだろう。そう感じることもできました。

大川小学校へ降り立ったのは四回目です。いつうかがっても、バスを降りると涙が自然に流れてきます。今回降り立つと、新しい石碑が建てられています。同じ苗字の方がたくさん亡くなられていました。三歳、四歳、七歳、九歳、と小さい子どもの名前が多いことにまた心が痛みました・・・改めて津波の恐ろしさを感じさせられました。

大川小学校のあの場所、あの空気は、いつも色々なことを私に教えてくれます。日々子どもたちが学校へ来て、教室に座り、私の授業を聴き、共に勉強すること、それは当たり前ではないこと。私は生きているのではなくて、生かされているんだということ。親が子を想う気持ちに勝るものはないこと・・・無念の思いで亡くなっていった人々・・・その方々の想いを無駄にせずに、教師としての私がいかに子どもたちと、保護者と、地域の方々と同じ向き合うのか？親として、妻として、一人の人間としていかに生きていくのか？この場所に来ると、あなたは日々考えていますか？忙しさに忘れていませんか？そう問いかけられ、気

持ちを改めさせられます。私にとっても、大川小学校は大切な場所になっていることに気づかされました。

【最後に】

このバスには若い先生方、そして学生の方がたくさんおられました。私が同じような年齢のころ、誰かのことを考え実際に行動し、ここまで心をよせて何かをやり遂げたことはなかったように思えます。日本もすてたものではない！と、このバスに乗ると感じる事ができます。とくに今回は、教師志望の学生二人が「被災地の人々のために！」と、この想いをたくさん届けにきた姿に感動しました。こんな先生に教えていただく子どもたちはなんて幸せだろう、そして、こんな先生が私の学校へ来て一緒に仕事をさせてもらえたら・・・もっと毎日を楽しめるだろうなと、一人妄想したりもしました。また、何度も一緒にさせていたいただいた先生方は、裏方の仕事をただ黙々とされます。それも楽しそうにです。この姿も私には大きな学びでした。そして、浅野さんや鈴木先生ご夫妻が笑顔で迎えてくれる姿に、どれほど心を温められたかわかりません。復興地は私にたくさんものを与えてくれます。心に刻み込むこの温かいキモチは、決して他では感じる事のできない、どこにもない、かけがえのないものです。それを頂くことができたのは、このバスを走らせるために支

援していただいている「日本を美しくする会」をはじめとする、多くの方の思いや支えがあつてのことだと肝に銘じ、今後も自分を取り巻くすべてのことに感謝できる人でありたいと思います。本当にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

★★奈良県四十代 女性★★

今回も参加させていただき、本当にありがとうございます。ごさいます。今回体験させていただき、感じたことを、できるだけありのままの飾らない言葉で記したいと思います。

私は小学校の教員をしております。出発前日に勤務校でトラブルが起き、参加が危ぶまれました。しかし、当日、色々なことが良い方向で繋がっていき、最終的には、考えられる中での最も円満な方法で解決することができました。このことにも見えない力が働いているように思えてなりません。その「力」が、私に「参加して、しっかりと学び、成長してきなさい。」と、言ってくれださっているように感じました。

「日本を美しくする会」様に支援いただき、また、大谷先生をはじめ皆様にお世話になる中での参加です。ただでさえ参加させていただけることが有り難いことですので、今回はさらに自分側

の事情で、参加できることが有り難く感じました。参加できることは、当たり前なことではないのです。参加できないかもしれないと思ったとき、なぜ私は参加したのかを考えました。なぜ参加したいのか・・・それは、「皆さんに逢いたいから」だということに気づきました。

行きのバスの中で、私が逢いたかった皆さんの想いを伺い、だんだん胸が熱くなってきました。特に、金先生が弟の大悟さんのお話をしてくださっているときは、私もこみ上げてくるものがありました。大悟さんのご両親に対する愛、金先生の大悟さんに対する愛・・・。

我が身を振り返り、足りないものを教えていただきました。

また、行きのバスの中で、「出逢いのサプライズ」がありました。以前、鹿妻小学校の避難所で出逢ってから、手紙のやりとりなどをさせていただいている佐藤サエ子さんと再会することができたのです。車窓からでしたが、サエ子さんの笑顔を拝見することができ、とても嬉しく幸せでした。

今回の金華山での活動は、幸運なことに、金先生の近くでさせていただくことができました。金先生のご講座は何度も受講させていただき、また、学級も何度か参観させていただいたことがあります。でも、そのような場では感じる事が（私

には)できない、金先生のお人柄を、今回は感じ、学ばせていただくことができました。金先生は「場づくり」の天才です。その場にいる人たちが、楽しく気持ち良く、さらに作業に集中できるように、場をつくっていかれます。一人ひとりのキヤラを見極め、そのキヤラに合ったお声がけをされているのです。そして、その場に合ったキヤラをご自身でつくっておられるのです。

金先生の学級づくりの真髓(と)言うとお大袈裟かもしれませんが)を見せていただいたように思いますが。

出逢いと言えば、復興地の方々との出逢いも、もちろん心に残るものでした。金華山までわざわざお越しくださった石森さんご一家との出逢いは、私の中で温かいものとして残っています。お料理のお手伝いをさせていただき、食後はご家族とお話しする機会をいただきました。直接震災当時のことをお聞きすることができ、勉強になりました。このことは、学級の子どもたちに伝えたいと思っております。石森さんご一家の関西ツアーを何とか実現させたいです。

また、大川小学校では、今回も当時のお話を伺うことができました。いつもは暗い中でご冥福をお祈りしていたのですが、今回は日があるうちに小学校に到着してくださったので、今まで見ることができなかった震災の爪痕も見ることができ

ました。ここで、子どもたちが普通に学校生活を送り、そしてあの日がやってきた・・・想像すると胸が締め付けられました。無償に自分の学級の子どもたちに逢いたくなり、一人ひとりの名前を呼んでいました。

その後、震災前後の写真を見てお話をしてくださったので、その無念さが心に染みしました。植えられたヒマワリの花が、太陽の方向でなく学校の方を向いて咲いているお話は、不思議なようで不思議ではない：そんなふうに思いました。

上品の郷で、浅野さんと鈴木先生に出逢うことができました。短い時間でしたが、お二人との出逢いは、確実に私の心に栄養を送ってくださいました。

鈴木先生からは、自分が見たこと感じたことを、そのまま子どもたちに伝えることの大切さを教えていただきました。

浅野さんからは、どんな状況でも前向きに進んでいくパワーをいただきました。

お二人は、私の憧れであり、目標です。お二人に少しでも近づきたいと(畏れ多いのですが)思っています。

今回も参加者の皆さんから多くのことを学びました。いつも会の中心になって動いてくださっている先生方。今回も、私たちの見えないところで、ずっと気配りをしてくださっていました。「掃

除に学ぶ会」の皆さんの動きは本当に素晴らしいです。利他のお心に溢れておられます。私に一番足りないものです。

大阪産業大学の皆さんにも感動しました。義務感ではなく、ご自身の意志で活動されていることが伝わってきました。私は、学級の子どもたち「学校へ来るのは社会に出て役に立つ力をつけるため」だと言っています。その「力」を、大阪産業大学の皆さんは、しっかりとつけておられます。宿所で同室になった山城先生と古松先生には個人的な悩みを聞いていただきました。

山城先生とは、学級での悩みで共通することが多く、私の気持ちも共感していただけ、それだけで癒されました。

古松先生は私のメンター的存在の方で、今回も大切なことを教えていただきました。

また今回も、大親友の水野先生、山路先生からは刺激を受けました。つねに「人に喜んでもらうためのアンテナ」を張り、気づいたことを行動に変えておられました。この「気づき」が私には圧倒的に足りないのです。

そして、いつも一緒に学んでくださっている同志(だと私は思っている)大崎先生。私と同じように、仕事で参加が危ぶまれましたが、ギリギリ参加することができ、ホッとしました。彼はいつも身近にいてくださるので、彼の成長はきつと他の

人以上にわかっていると思います。同じ場にいるも、大崎先生は私以上に吸収され、成長しておられるので、いつも負けないように頑張ろうと思わせていただけます。

今回も私の弱さに気づくことができました。

「家族愛」「利他の心」「気づき」足りないものばかりです。弱い自分から抜け出したいです。いえ、抜け出します。

今回の「復興地に学ぶ会」での出逢いを通して、私も強く成長していきます。大切な人、大好きな人たちと過ごせた幸せな四日間でした。最後までお読みいただき、ありがとうございました。

★★兵庫県二十代 女性★★

東日本大震災が起こってから、二年が経ちました。当時、わたしは大学生でスキー部に所属しており、三月十一日もまた、長野県の戸隠スキー場でスキーをしていました。そんな最中に、東北での大きな被害を知りました。被災された方々のことを思うと、「何か自分の出来ることをしたい。」という、気持ちばかりが空回りして、結局、何もありませんでした。あつという間に四月になり、教師としての新たな生活が始まり、無我夢中で働いてきた二年間でした。日々の多忙さに追われ、被災地に対する気持ちを忘れてしまった訳ではあ

りませんが、はじめてニュースを聞いたときの衝撃、悲しさは明らかに薄れつつありました。また、「何か自分の出来ることをしたい。」という気持ちも、必要ないかもしれない、と思い始めていました。

今回、いろいろな偶然から大阪便教会を知り、東北に行けることになりました。二年経った今、自分にできることは有るだろうか、自分が力になれることなんて無いかもしれない、などと考えを巡らせながら、出発の日を心待ちにしていました。

復興地へ出発して間もなく、私の抱いていた疑問の答えとなる言葉を、さっそく大谷先生から与えていただきました。バスの中では、今回の旅の趣旨、これまでの復興地（被災地）に学ぶ会の活動等について大谷先生からお話を伺いました。その中で、「今も苦しみ続けている人がいること」、「ボランティアが減り、世間では東日本大震災が風化しつつあること」を教えてもらいました。自分自身を振り返ると耳の痛い話で、何か力になりたい、と思っていた気持ちが小さくなっていたことに気が付きました。

今、必要なことは復興地の人の心のケア。あれから二年が経ち、復興地の人たちは必死に復興に励んできた日々をひと段落がつき、我に返る時間ができたそうです。身近な人の死や、職や家を失ったことの悲しみ、頑張りすぎによる無気力状態。

人は誰かが応援してくれたり、誰かのためだったりすると力を出せますが、一人きりだと頑張れなくなってしまう。ボランティアが減り、家族や大切な人を亡くして、苦しみ、悲しみに悩まされている人が、今もたくさんいると聞きました。私には何ができるのでしょうか。

まず始めに、バスは門脇小に着きました。門脇小は津波がきたあとに火災に見舞われ、黒く異様な状態で、立ち入り禁止の看板がついたまま付んでいました。町をバスで走ると、普通乗用車がたくさん走っていて、復興が進んでいることを感じた反面、その傍では、津波でぐしゃぐしゃになった車が道路わきに山積みになっているものを見ました。現地で、見たこと、感じたこと、聞いたこと、全てが現実で、東日本大震災は本当に起ったことであると、今更ながら、改めて理解できました。

その後、われわれは牡鹿半島より金華山にむかいました。金華山の黄金神社では、一日中、鹿のフン掃除を行いました。遥々東北に来て、なぜ鹿のフン掃除をしているのだろう、と考えました。一日中、右から左、左から右、と動かしつづけ、背中、腰がだんだん痛くなり、腕もだるくなりました。しかし、この作業を通して、泥や瓦礫の撤去作業が何日間も続けられていたことや、四月の風の冷たさから、三月の東北の寒さの厳しさを想

像することができました。他の参加されている方々は、私と同じように体のだるさ、痛さを感じているはずなのに、黙々と作業に打ち込まれていて、心の強さを感じました。その中のある人が、「この掃除をするのは、お金や何か見える形で報酬をもらうためではない。ただ、神社の方から依頼を受けて、依頼されたことを喜んで。その中から、何か受け取ることがあるかもしれないし、ないかもしれない。」と、話してくださいました。それはとても難しい言葉でしたが、しつくりとくるものもありました。

震災から二年。復興地で欲されていることはまだまだあります。復興にお金が必要で、観光客に来てもらいたい人。仮設住宅で話し相手がいなくて寂しい思いをしている人。子どもを亡くし、悲しみが癒えず、そのことを忘れないでいてほしい人。悲しみを乗り越え、前へ進むため、新しい一歩を踏み出そうとしている人。様々な人の欲していることを、喜んですることができればいいな、と思いました。形には見えないことかもしれませんが、話を聞いたり、身近な人と震災の話をしたり、震災のことを忘れずにいることだけでも何か力になれることがあるかもしれません。これからも、「何か自分のできることをしたい」という思いをもち続け、復興に携わりたいです。

★★兵庫県二十代 男性★★

この度も復興地に学ぶ会に参加させていただき、大谷先生をはじめ、一緒に学びを共有させていただいた皆様と日本を美しくする会の皆様に感謝いたします。

私は幾度かこの会に参加させていただいていますが、私のような者が貴重なバスの一席をいただいているのかと悩んだ事も何度もありました。しかし、会への参加を重ねる中で、「自分が何を成せる人間であるかよりも、自分が今何を為そうとしているかを大切にしよう」という考えを得ました。また、こういった復興のお手伝いは、一度の機会でも多くの歩みを進められるわけではありません。全国から多くの人々が集結したとしても、本当に一歩ずつしか前に進んでいけない現実に、支援を行う立場でありながら、心がくじけそうになったこともあります。しかし、数珠つなぎのようにして支援を継続して行く事によって、少しずつでも確実に歩みは進められるという事を、今回の石巻の様子を見ながら感じる事ができました。自分達だけでは力は僅かであろうと、多くの人の力が継続的に発揮されたならば、変化は起こす事ができます。また、そうやって数珠つなぎをしていくのですが、その列に加わる時にどんな気持ちで加わるかで、伝わっていくものも変わります。私は、自分がその列に加わることで少

しでも歩みを遠くに進められるならと思い参加を続けています。また、ひととひとの心を伝わって支援が遠くまで届いて行くのならば、喜んでこの心を媒体に差し出そうと思いい、参加を続けていきます。

参加を続ける理由のもうひとつに、復興地で得られる学びがあります。学びを得る為に復興地に行くというのは、自分の利益のために行くようですが、それは違います。会で得られる学びは、いつも情けなくなるほどに当たり前と思えるようなことへの気付きです。大切な事を蔑ろにしていた自分への気付きです。東日本大震災という出来事を、遠い地からではあれど目の当たりにして、そのような日常における大切にしなければならぬものに気が付けなければ、同じ時代に生きた人間として罪だと感じるのは、気が付くべき事は日常にあり、それに気が付く為に復興地に足を運ぶのです。

今回の学び、気付きを紹介します。牡鹿商店街で食事をしていた時に感じた事です。美味しい食事をいただきながら、自分の腹が満たされ、活力が湧いてくることを感じました。その時、「生かされている」と感じたのです。大変厳しい当時の状況を生き抜いて来られた復興地の方に、食事をさせていただくという意味にその時衝撃を受けました。それまで、食事をして空腹が満たされる

ことを感じたことはあっても、それが「生かされている」という実感に繋がったことはありませんでした。日常における感謝が不足していたことをこの時気が付きました。復興地では、「生きていく」という感覚、「生かされている」という感覚を、何倍も研ぎすまされて感じます。また、「感謝の思い」にも敏感になります。復興地に足を運ぶ目的は、起こった出来事の凄惨さや悲しみを噛み締めるだけではなく、こういった温かさを実感することも、私達の大切な使命として含まれるのではないかと私は思います。

最後に、これからの支援の形について考えたいと思います。決して起こって欲しくなかった悲しい出来事ではありましたが、震災があったから、私は復興地の方々と繋がることができました。きっかけは悲しい出来事であったとしても、遠く離れた地で、久しぶりで顔を合わせて、ふっと安心して笑顔になれるような相手ができたこと、単純にとっても幸せなことです。そしてたくさん学びと気付きをさせていただきました。全て震災があつたからもたらされたものであるけれど、震災がなくてもこうあるべき姿だったのだと思います。私達は今後、ボランティアだとか敷居の高い特別な事をしようとするのではなく、隣の人と心を繋ぎ、助け合い、蔑ろにしがちなことを大切にしながら毎日を生きて行くことが大切なのだ

思います。それが結果的に距離を超えて復興地に届くほどに、自分の周囲との繋がりを大切にしていかなければならないと強く思いました。ありがとうございました。

★大阪府五十代 女性★

第十六回復興支援活動に、初めて参加させていただきました。今回は同じ職場の山本先生に誘っていただき、タイミング良く母が子供たちを見ていてくれるというので参加することができました。こうやって声をかけてくれる人、家をあけても助けてくれる人、子供たちも元気でいてくれることなど、いろいろなことに感謝、感謝です。バスの中ではそれぞれの自己紹介から、色々な思いを持った人が参加されているのだなと思いました。途中、とても激しい雨が降っていました。バスの運転手さんは、運転にとっても気を使っただろうと思います。

翌朝、門脇小学校前に降りたときは、二月に鈴木先生のお話を聞いたときのことを思い出しました。「校舎が何日も燃え続けた。」と聞いたとおり、離れたから場所からでも校舎の中が黒く焼けているのが見られ、また周りも家が建っていたのだらうなあという痕跡が見られ心が痛むものがありました。それでも、校庭や道路に面した場

所には花が植えられ、少しずつ復興に向けて前へ進んでいるのかなとも感じられました。

鮎川浜から船で金華山へ行く途中、船の運転手さんからも貴重なお話を聞きました。津波から船で逃げたこと、鮎川浜の海の水が信じられないほど引いて後から真っ白い壁のような（黒くなかったそうです。）津波が襲ってきたこと、津波に囲まれてその高さで空が見えなかったこと、とにかく逃げて波に飲まれないように上へ上へと船を進め、波に乗ったあとは真っ逆さまに下に船が落ちたことなど、「信じられないよ。」とお話してくれました。後で買った写真集の中に、その光景が（海の水が引いているところ）ありましたが、実際目の前の海の水が海底が見えるまで引くなんて想像しただけでも異様な感じで怖かったです。

金華山へ着くと、道路はまだ崩れたところが多く、自動販売機も使えない、入浴施設もまだと聞き、震災から二年過ぎた今でも元のとおりではないと知りました。作業はただひたすら竹箒で芝生を掃除ということでしたが、坂の勾配もきつく結構な運動です。しかし、無心で掃除をしてその後の綺麗になった芝生を見てそれは達成感があるものでした。

夕食は、石森さんや、食事係のお手伝いの方が作ってくれたものを東京の方たちと一緒にいた

できました。お腹が減っている時に用意された暖かいものを食べることができるとあって、とてもありがたいと思います。となりの席は同じバスと一緒に来た方ですが、初めてお話す方だったので新鮮でした。体験発表会では、また初めてお話す人たちとグループでいろいろ語り合うことができました。石森さん家族とも席が近くでお話ができよかったです。何が良いかというよりは、直接出会う中で身近に感じるといこと、お話を聴いたりする中で疑問に思ったり聞きたいことをすぐに聞ける距離にいること、自分の思いを語ることができるとことなど、出会わなければできないことだと思います。「出会い」って大切ななあと思います。

次の日の朝は、同じ部屋の方たちと一緒にトイレの掃除に参加させていただきました。朝8時30分に起きてトイレ掃除をしたのは、生まれて初めてです。朝早く起きるのは苦手な自分ですが、「一緒にやりましょう。」と声をかけていただくことでモチベーションも上がり、みんなで掃除をして綺麗になったので「私もやればできるじゃない！」と達成感を感じました。一人では決して味わうことのできないものでした。少し筋肉痛の体を感じながら二日目の作業を行いました。昨日と同じ芝生の掃除と道路の掃除をしていくものでしたが、天気もよく海も綺麗にみえて（風は強かったです

が）気持ちよく掃除ができました。最後に宿舍もとても綺麗に徹底して掃除を行っているのを見て、日頃の自分を反省しました。しかしながら、やはりみんなで一緒に頑張って掃除をするのは楽しいなあとも思います。

金華山の作業が終わってお昼は牡鹿仮設商店街へ行きました。鮎川浜から歩いて行く途中、橋の欄干が壊れていたり、ガードレールや鉄柱が折れ曲がっていたりと津波の威力が凄まじいものであることが伺われる物を目にして何とも言えない気持ちになりました。人間なんてひとたまりもないとも思います。周りの景色を見ながら、商店街へ着き、ここではお昼ご飯をどうしようかと迷いながら、やはり海の近くということで「海の幸」をいただくことにしました。うに、いくらやマグロのお寿司は絶品でした。お店のおばちゃんともお話をしたりして楽しい時間を過ごしました。お店の裏に「ハッピー」という名前のビーグル犬がいました。近寄るとしっぽを振って体をすり寄せてとても可愛かったのですが、震災の時はとても怖がつて逃げたのだとお店のおばちゃんが教えてくれました。今もひとり家で置いておく不安があるので店まで連れてきているそうです。商店街の壁面に桜とお花のよせがきがあったので「また来るね。」と書きました。いつかまた来る

ことができればと思います。ここで石森さんとはお別れでしたが、皆さんで挨拶をしました。とてもお世話になったので名残惜しく「また次に…」という気持ちでいっぱいでした。

商店街をあとにして、次は多くの児童や職員が犠牲になった大川小学校に行きました。新聞やテレビで少しは知っていたのだけれども、実際にその地に行きこの目に見て感じるととても切ない思いがします。この地で起きた色々なことを想像しただけで涙が出ます。この日は風が強く風車がカラカラなってその隣には何本もの桜の花の枝があり、お地藏さんがいて、子供たちが寂しくないように、寂しい思いをしないようにという思いが感じられました。お話をしてくださった方の思いも大切に受け止めなければならぬと思います。今も見つかっていない方々もいて探している人たちもいるということを私たちは忘れてはいけないと思います。

道の駅に行く途中に、仮設住宅があることに気がつきました。近くにあったので、もしかしたら温泉で誰かとお話が出来るとかと思いました。しかしお風呂でお話した人は私と同じ広島県の人で、車でここまで来て、色々なところの写真を撮りに来たそうです。少し広島弁でお話して懐かしかったです。こういうところでも「出会い」があるのだなあと感じます。お風呂のあとは浅野さ

んと同じテーブルでお話を聞きました。すごくパワーを持った方だなと思いました。こちらが元氣をもらうような感じですよ。テレビの取材を受けたとお話されていたので是非見てみたいと思います。いつ放映されるのだろうか？・・・

浅野さんともお別れをして、またバスの運転手さんにお世話になりバス出発です。もう帰るだけかと思ったら、今度は感想をみんなでお話するという事です。疲れもピークになり、しかもお風呂のあとお腹も膨れて・・・とあつて睡魔と戦いながらお話を聞きました。すみません。しかし、皆さんとても志高く、自分も勉強になりました。元氣をもらいました。そして、色々な方々からの差し入れもとてもありがたかったです。こんなに色々頂いていいのかというくらいでした。家に帰ると、何もかもが有難いなあと感じます。まず、暖かいお布団、元氣な体、ごはん、お風呂、「おかえり」と言ってくれる家族、私の話を聞いてくれる友人・・・いろいろ・・・本当に感謝をして毎日を通して行くことが大事だなあと思えます。次も機会に恵まれば参加したいです。皆さんお世話になりました。ありがとうございます。

★大阪府五十代 女性★

本当に夢のような二日間だった。昨年三月、十月と行かせていただき、金華山には是非また行きたいと思っていた。今まで倒れていた「金華山黄金山神社」の社号標も立っていた。今回は、五月三日の大祭の前の芝生のお掃除、参集殿のガラスふきご奉仕の内容だった。みんなでするとどんな仕事かはかどり、気持ち良かった。また大阪産業大学の野球部の学生さんは倒れていた灯籠をなおすなど、力仕事を担当された。

社報によると「鮎川港から小型船が協力し合っ
てピストン運行し、新正月 三が日でおよそ一千人、旧正月元旦はおよそ二百人が来山されました。」とあり、本当に嬉しかった。今回は震災当時、体育館で避難されていた阿部さんたち、浅野さん、門脇小学校の鈴木先生、旦那様、そして石森さんご家族と再会できたことも本当に嬉しかった。

石森さんご夫妻には金華山の厨房で晩御飯八十五人分を作っていたいただき、そのお手伝いをさせていただいた。ピカピカのかつおをおろしていただき新鮮なお造りをいただく。とろろめかぶ、シヤコのお吸い物、鯨の竜田揚げ、きゃべつ、トマト、卵焼き、チキンの照り焼き、大根のお漬物、八升のごはん、・・・本当にご馳走で、満腹になった。

そうだ食事といえは・・・バスに乗る前、宮崎監督から朝食用に全員にパン二個差し入れていただき、坂本さんからお寿司をいただき、朝、鮎川浜についた時には、宮城掃除に学ぶ会の太田さんから全員にお昼用のお弁当を差し入れていただき、夕御飯は石森さんの・・・全くいただくばかりでなにをしていることやら・・・

絶景の中の芝生のお掃除、食事の支度のあと、夕方散歩に出かけた。神社から見る黄金に照り輝く海、そして夜は満月ツアー、星空が千年前と同じように光っている。満月をバックに渡辺プロに写真をおねだりする。あまりの美しさ、嬉しさに小躍りしてしまう。「ここはどこ？私はだれ？」の世界だった。

翌日は東京グループを見送ったあと、お神輿置き場になるところのお掃除、道のお掃除をさせていただきます、登って行く。参集殿ではガラスふきがなされていた。ピカピカで鳥が間違つてぶつかるぐらいだった。本当にみんなの力はすごい。そういえば私たちが寝ているあいだにもトイレ掃除をして下さり、朝起きた時にはもう美しかった。最後の自由時間にはまた岡まで走って行き、絶景を、風を楽しむ。十二時ギリギリに船着場につく。しかしその間に会った人がまたすごかった。お一人は石巻の七十五歳のボランティアの方で「ボランティアの方が来ている時に少しでもお

手伝いをさせていたきたい」という方。その方から教えていただいた福井のボランティアの方。この方はお盆とお正月のほかは大体この金華山の修復に尽力されておられる。七十一歳。鉄の接合から青銅の接合、倒れている灯籠や、柱などチエーンを使って次々と修復させてしまった方だ。石巻の方曰く「神様から派遣された方」だ。段取りがスゴイらしい。握手をしていただく。見かけは普通のおじいさん。しかし、本当は神の使い。今回は山城大悟さんとグリコちゃんが大阪教育大学の学生さんの思いを、鉢植えという形で石巻の方々に、地球レベルでの祈りを込めて配ってくださったことは非常に素晴らしい。全ては入れ子構造になっているので金華さんのお掃除も、芝桜の鉢植えもきつと地球を美しく、平和にするためにおおきなはたらきになっていくと確信する。

大川小学校に行かせていただき、原点に戻らせていただく。家族を大切に、仕事を心を込めてさせていただき、一日一日を深く、味わって楽しんで生かさせていただけます。

全ての方々、本当に無限の無限のありがとうございます。

★★奈良県二十代 男性★★

自分に関わってくださるたくさんの方々のお

かけ参加させて頂き、大変貴重な充実した時間を過ごさせて頂きました。日本を美しくする会の皆様、また支援してくださっている方々本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

震災からいつのまにか二年が過ぎ、復興が少しずつではありますが進んでいます。ただ時間のたつ速さは復興と比例していないように感じます。目に見えることだけが復興していき、目に見えないことはおいておかれているのではないかと感じます。それは足を運ぶことで感じられることで、現地の人と関わることで確信になっていきます。そんなやるせなさを感じたりもしますが、一緒に行かせて頂いている仲間、現地で待つてくださる方々から、様々なことを学ばせて頂いています。

今回は一年前に初めて訪れた金華山。素晴らしい自然がわたしたちを迎えてくれました。観光客も少しずつ増えてきているといったお話や、以前手伝わせて頂いた貯水槽の復活も近いことわかりました。ボランティアの活動もバトンとなり引き継がれ、たくさんの方の活動がひとつの復興につながっているように思います。活動は公園の清掃活動ですが、二日からのお祭りのことを考えると、わたしたちがさせて頂くことがたくさんの方の笑顔につながるものがうれしくなりました。仲間と共に楽しく活動させて頂いて

ました。そこで牡鹿半島の仮設商店街のお店で出会った方が家族でいっしょにきてくださったことが何よりうれしいことでした。夜には温かく心のこもったご飯をいただきました。本当に有り難いことです。参加した方が笑顔になっていました。その後に震災当時のお話、また「今」の現状、「今」わたしたちにできること、などお話ししたくないこともあったかもしれませんがお話してくださいました。大変貴重な時間で、これから何が大切か。それはやはり復興地に足を運ぶこと、ボランティアではなくとも、足を運ぶことが一番求められていることだと思います。それは現地で出会った子どもたちが、「次いつ来るの?」と聞いてくるのが物語っているようで、わたしたちが来ることを待つてくれています。それが「今」求められている一番の心の叫びのような気がします。関わり時間を共に過ごすことで、温かさや感謝の気持ちや笑顔や、たくさん頂きます。たくさんの幸せをいただいています。私も少しでも幸せを届けたいと思います。

復興地に行かせて頂いたことで出逢い、縁をいただいたことが「今」の私につながっています。人と関わることで学ばせて頂けていること、人とのつながりが自分に与えてくれている温かさが何より伴って感謝です。その機会をくださったている全ての方々に感謝申し上げます。今日いま

からもう一度初心を忘れず、目の前の子どもたちと一生懸命していきたいと思います。ありがとうございます。ございます。

★★大阪府三十代 男性★★

【初心忘るべからず】

言葉としては知っていました。大切にしようと思っていました。今回の復興地に学ぶ会で体感することができました。

私は門脇小学校に降り立つ時、今までは大谷先生のお声がけで無言で行動していました。しかしながら、今回は降り立つ時は大きな声で話をし門脇小学校に降り立つ意味を見いだせずにはいられませんでした。その場に心を寄せることができず、ずかずかと土足で踏み込んでしまった自分がいました。自分の中で門脇小学校の光景や復興地に対する想いが風化したようで、怖くなりました。

多くの方から、パンやお弁当、お心遣い、温かいお料理、寝るお部屋、お土産とたくさんのお想いを頂きました。このような当たり前に頂いているものようですが、実は当たり前ではないことをもう一度思い返すことができました。今回の学ぶ会ではこうしたことに気づきなさいよ、というメッセージを頂く会だったのではないかと感じました。

大川小学校へ向かう道中には大谷先生が降り立つ時の意識をただしてくださるかのようにお話をしてくださいました。今までも同じように言っていたことが今回は深く心に落ちていきました。「中途半端な気持ちで行くところではない。観光バスがとまることをよく思わない遺族の方の想いに心を寄せること、それでも私たち教師は行って感じさせてもらう意味がある。カメラは誰も撮らずにいきましょう。無言でいきましよう。」と言ってくださいました。また、感じたことを明日の学校へ。子どもたちに早く会いたい。そこにいてくれるだけでありがとうと思える。など、実際に大谷先生が思っておられることをお話くださいました。そうすると、雰囲気ガラッと変わり大川小学校へ降り立つことができました。

その姿を見て、お話をくださった被災された方が「ここに来て、写真をとるような人にはならないてくださいね。」とおっしゃってくださいました。それはまるで、「そんな子どもたちに育てずに、心を寄せることのできる子どもたちに育ててくださいね。」というメッセージのようにも受け取ることができました。

私自身、復興地に学ぶ会に参加させて頂く中でこのように気づかせ頂き、考えをもたせてもらえました。感謝しております。また、この会がこれだけ続く会だからこそ感じれるものだと感じ

ます。復興地に学ぶ会が継続していけるのも、日本を美しくする会のみなさまや、大谷先生をはじめとする多くの志を高く持たれている方々のおかげです。ありがとうございます。

★★大阪府六十代 女性★★

日本を美しくする会の御支援により、今回の支援活動にお声掛け頂き参加させていただきました。

寝ボケ目な門脇小学校に到着、初めて見る校舎周辺大きながれきは撤去されていましたが、さまざま津波の様子、時が止まっているようでした。

鮎川浜から金華山へ少し浪もあり船はゆれ身をゆだねる思いに、島に到着、黄金山神社への道、津波の傷跡が痛々しく。すでに到着されていた東京からの方々作業を開始されていらつしやいました。その御指導のもと落ち葉をして目的の鹿の糞、年齢層も色々初めて出会う方も多く掃除を通じての仲間ですが阿吽の呼吸で少しずつきれいになってまいりました。昼食には宮城掃除に学ぶ会の代表世話人大田様の全員のお弁当の差し入れ舌づつみお気に感謝。午後からも引き続き作業開始清々しい風景に変身、炊事班で一足早く宿舎にもどり、鮎川浜からこの為にこられ

た、いしもり様の御指導のもと御馳走作りのお手
伝い、活きの良い大きな鯉四匹見事な包丁さばき
でプロの技を拝見出来ました。

準備万端出来るだけ同じ地域の方でない人と
の声掛け、みな達成感と御馳走を前に素晴らしい
笑顔、いしもり様のこころ尽くしのお料理御自身
の負担を考え申し訳ない思いでした。

下膳等で一足遅く体験発表会等に参加、

①掃除の姿は素

②自分で自分を喜ばせない

③知ってしまった者の使命とは

③の最後の方でしたがお葉書でお教え下さいま
した。その他素晴らしいお話お教え学びを頂戴い
たしました。

夜は満天の星空 待望がかないました。早朝よ
り心ある方々のトイレ掃除等気が遅くちょ
ッピリ残念でしたが大きな学びを頂きました。皆
揃つてのラジオ体操、ラジオ体操第二苦笑の顔当
然私も、各自朝食後清掃作業東京組は一足早くお
帰り御苦労さまでした有難うございました。栈橋
までお見送りホーキ片手に再会を願ひ笑顔でお
別れ。

十二年に一度巳年の大祭に備えての要請、御神
輿のお旅所の清掃をさせていただく、石塔の彫つ
た文字の中の汚れに気付かれる歩美さん素晴ら
しい。下から上へ神輿を担ぐ地下足袋の方の負担

を和らげるためにとお聞きし、皆心をこめての作
業見違えるばかりでした。

若い大阪産業大学の学生さんの力、第一便で船
出、震災で倒れた大きな拝殿の灯籠二個の復元に
渾身での力の協力に感動された頭領様？の見送
り 船が見えなくなっても両手を振り続け感謝
の心を身体全体で表わされているようで最大の
大きな感動でした。

昼食は鮎川浜の仮設商店街で私はお寿司をお
土産も、いしもり様は昨日の事 仕入が出来ずや
むなく本日休業同じ仲間のお店を終始笑顔で忙
しく対応されていらつしやいました。

バスで大川小学校には四度目です。周りは少し
整備されていましたがその場の空気は暗く重く
お話で伝えるべく関係者にご遺族の無念を忘れ
ることなく手を合わせていました。

上品の湯汗と疲れをいやす、何よりでした。浅
野仁美様と元門脇小学校の鈴木洋子先生と御主
人様、鈴木先生の大変な反対の中の日ごろ訓練が
実を結んだとお話下さいました。良いことの実行
熱く深い思いがあればこそを教わりました。大阪
教育大生のお二人被災者の方に花の苗と優しさ
を届け明るい日々をと、その発想思いの深さに頭
が下がりました。今回の苗代等は学長様の御好意
御支援と聞きました。またその成長に目を見張り
ました。

日本を美しくする会の御支援そして大谷先生
はじめお世話下さった方々、同行の皆様、すべて
のご縁のお蔭で年齢を超えた素晴らしいお教え
学びをたくさん頂戴いたし心より感謝しお礼申
し上げます。そしてより良きものに生かしてい
ります。

★★大阪府二十代 女性★★

【家族、友だち、仲間、子どもたち・・・】
いつも自分の近くにくいてくれる人たちが、当
り前になっていた。普段接しているとき、その人
たちの命まで考えない。また逢える。そう簡単に
考えていた自分があることに気づいた。死を意識
するわけではないが、もつと丁寧の時をともに過
ごしたい。もつと丁寧にあいさつし、もつと丁寧
に言葉を選んだり、もつと丁寧に活動したり。傲
慢になり、感謝の気持ちをお忘れていることを思い
出させてくれた。

【人は音で安心する。】

ただいまあーと帰宅し、夕飯を作る音がすると、
お母さんを感じる。テレビを見ながらうたた寝、
テレビの声とともにいびきが聞こえると、お父さ
んを感じる。携帯から最近の曲が流れていると、
弟を感じる。家の音、教室の音・・・色んなこと
るので、色んな音があふれている。今回訪れた復興

地では、どんな音を耳にしただろうか。門脇小学校では、バスから降り立った私たちの話し声。大川小学校では、風車の回る音。小さな鯉のぼりが泳ぐ音。本来、そこには子どもたちが笑顔が咲き、笑い声があるれていただろう。時には、ケンカし文句を言い合い、先生に叱られることもあっただろう。泣き声も響いていたかもしれない。元気なさよならのあいさつが、骨だけになった校舎から聞こえてくるような気がした。でももうそこには何もない。津波が奪ってしまった。その場所に流れる音が、その場所の空気感を創り出しているように感じた。いま身の回りにあふれている音は、当たり前ではない。いつか途切れてしまうことが、くるかもしれない。そうなってしまうたら、空虚感に襲われてしまう気がしてならなかった。

いま自分が置かれていた環境に感謝し、当たり前を造らないように、過ごしたいと改めて思うことができました。

復興地に学ぶ会開催にあたり、尽力してくださったすべての方に感謝いたします。また、ともに活動させて頂け、同じ空気感の中で学ばせて頂いた仲間へ感謝いたします。そして何よりも、復興地で励んでおられる中、私たちに心を寄せてくださった方々に感謝いたします。本当に本当にありがとうございます。感謝。

★大阪府五十代 女性★

第十六回復興地に学ぶ会に参加させて頂き、ありがとうございました。二回目の参加です。初めて参加した昨年の五月以降、大阪産業大学での講演会や小学校でのトイレ掃除に娘と参加していました。大谷先生、西貝先生、山崎先生、小峠先生と親しくなり、いろいろと話すうちに興味が湧いてきたようで、娘から復興地に学ぶ会に参加したいと言いました。

初めに訪れた門脇小学校は、一年前と比べて瓦礫が随分少なくなり、大きな缶詰の形の広告がなくなっていたことくらいで殆ど変わっていませんでした。あとで浅野さんにお聞きすると、ここは危険地域に指定されていて住宅は建てられないということでした。もう住みたくても住めません。門脇小学校で子供達の声を聞くことはありません。阪神大震災と違い、津波は家だけでなく地域そのものが無くなり復興を難しくしているのですね。

金華山での活動は、十二年に一度の巳年ご縁年大祭があるため、鹿の糞と枯れ葉を掃除しました。足元の芝生をみると大量の鹿の糞、糞、糞。はじめは汚いと思っていた糞も掃除をやっていくうちに不思議と汚いというのが消えていきます。広大な土地を掃除し終わった後、芝生の緑の鮮やかさを見て、充実感と達成感でいっぱいになりました。

最後に一番辛い場所である大川小学校を訪れました。この場所も二度目です。初めてバスから降り立った時は、冷たい空気が漂うのを感じました。やはり今回も同じ感覚を受けました。ただ違っていたのは、忘れな草や水仙が親御さんの手で沢山植えられていたことです。この花を見て、悲しいばかりで何も出来ない状態から一歩前へ踏み出されたのではないかと思わず少しホッとしました。ここでの時間を長めに取っていただけなので、地図を見ながら現地の人（やすきちさん）の話をお聞きすることができました。この場所は海から遠いので、誰もが津波の心配をしていなかった。自分もここにいたら山に登ることは考えず死んでいたかもしれないとおっしゃっていました。小学生や先生の多くが亡くなりましたが、まだ行方不明の子供さんが四人いて、今も親御さんは捜索を続けているそうです。それなのに、大川小学校の校舎をバックにピースをして写真を撮る、線香立てにたばこの吸い殻が入ってる等あるそうです。

初めて娘と参加することができ、地震や津波の怖さや人の温かさを肌で感じる事ができました。思います。親子で、想いを共有出来たことが一番の収穫でした。こんな機会を与えて下さった「日本を美しくする会」「復興地に学ぶ会」の皆様、運転手様、現地の皆様、本当にありがとうございます。

★福岡県六十代 女性★

復興ボランティアに皆様の協力があり、また参加できました。ありがとうございます。昨年十月より、次回はいつ頃に金華山の予定と知り、参加することにしました。ご縁を感じます。昨年、今年と同じコースでした。門脇小学校、大川小学校では、ご冥福を祈らせていただきました。被災地のボランティアの方が地図を広げ地震前後の様子を説明していただきました。余りにも衝撃的で大惨事が生々しく、心が折れそうでした。石森さんご夫妻も二年が過ぎ、地震津波現場の様子を話していただきました。石森さんと先生の絆を感じました。

石巻へボランティアに行く話を絵手紙の先生に話しました。一枚の絵手紙が多くの方へ大きな力を与え、言動力になってほしいとの思いから、絵手紙や鈴、手袋、品物を書きあげました。大谷先生に絵手紙をどこに展示したらいいかと相談したところ、石巻のボランティアの浅野さんと学生さんが別行動をされるので届けていただけることになりました。行きの車中でも全員の方に絵手紙を見ていただきました。福岡県糸島市から石巻へ絵手紙が架け橋になれば、今後交流したいと思います。帰りの車中で久井さんが被災地へメッセージを送られました。よいとまけの唄は感銘を受けました。久井さんの掃除、笛、唄に親切と優

しさを感じました。次回は懐から何を出されるかが楽しみです。全ての準備をして頂いた先生、大学の先生、多く支援して頂いた方感謝申し上げます。ありがとうございます。

★兵庫県五十代 男性★

この度のボランティア活動の企画に参加してくださった方々に感謝します。

「日本を美しくする会」の活動に初めて参加させていただいて、感じたことは、参加された方々が清掃活動にポジティブにかかわっておられる姿を見て、感服しました。金華山黄金山神社での清掃活動では、鹿の糞だらけの斜面が夕方にはゼロに近い状態になり、人間の力の偉大さを感じました。正直なところ嫌いではないけれども、清掃活動に苦手意識があった自分が、長時間にわたって楽しく清掃活動ができ、自分にとっても良き思い出となりました。

今回の活動に参加するきっかけになったのは、去る二月二十四日の大阪産業大学での鈴木洋子先生の講演を聴き、どうしても被災地に行きたいという気持ちから参加させていただきました。二年前の地震および津波の発生からTVなどの映像で被災地の映像を何度も見てきましたが、短い期間でも被災地に立つことにより、その衝撃を強

く感じました。二日目の朝に石巻市内をバスが走る中で、家屋の基礎のブロックが残った更地、崩れたの川の堤防、倒れたガードレールや橋の欄干、木が倒れ、地肌が崩れた山や丘陵地の斜面など、土ぼこりにまみれた道路、窓ガラスの部分だけ欠落した高層建物など、地震や津波の足跡がまだまだ残っている現状を見て、TVで見えていた東日本大震災を現実の問題ととらえることができました。阪神淡路大震災を経験した私にとって、人生で二回目の衝撃的な光景でした。とくに門脇小学校と大川小学校の被災した校舎の姿は、同じ教育に携わる者として、残念に思えてなりません。この二つの小学校以外にも同様に被災したことを考えると、学校の被災という点では、おそらく阪神淡路大震災を上回る被害でしょう。

鈴木先生の講演を、拝聴し、日頃からの防災訓練の重要性を学ばせていただきました。鈴木先生が根気強く保護者も含めて防災訓練を繰り返し実施されていたこと成果が、多数の生存者を残すことができたことにつながったのだと思います。何よりも当時校長であった鈴木先生以下、職員の間連係プレーの精度の高さに教師として脱帽します。一方で、大川小学校では、多数の死者を出すという悲しい結果になりました。当時の大川小学校での避難の様子について書物で調べてみると、地震発生から津波が押しよせるまでの五十一分

間に適切な判断ができなかったことについての問題点が指摘されています。大川小学校の防災マニュアルなどが明らかにならない限り、真相はわかりませんが、いずれにせよ、私たち教師の判断力が子どもたちの命を左右すると言っても過言でないと思います。大川小学校を含め、二度とこのような悲惨な事態を起こさないためにも、子どもたちの命を、私たち教師が預かっているという意識を絶対に忘れてはいけないということを感じました。

今回、金華山黄金山神社での清掃活動を通じて経験したことを、私の今後の教育活動に必ず生かしたいと思っています。

今回、準備をしてくださった関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。今後とも、「日本を美しくする会」の発展をお祈りいたします。ありがとうございました。

★★大阪府五十代 女性★★

第十六回復興地に学ぶ会に参加させていただきありがとうございます。そして、お世話になりました。震災後、二回目の東北行でした。震災三か月後に行かせてもらった時も、私にできるだけのことしかできないけれど・・・の思いでしたが、今回もそうでした。そして、その通りのこと

しかできませんでした。三週間ほど前、久しぶりに放課後の保育に入り、首を痛めて、膝に影響ができました。今回は迷惑かけるから行けないな！と覚悟したのですが、何とか回復し、ありがたい気持ちと少しの不安を持って乗ったバスでした。

石巻に入り、金華山に行くまでの道のりや門脇小学校で降り立った時。確かに瓦礫（思い出の品々）の山はなくなっていたけれど、光景はまだあの時のままでした。そして、あの時と同じ「海は穏やかで、きれい」でした。違っていたのは、あの忘れられない「匂い」がなくなっていたことです。作業は膝をかばいながらも、何とか人前は役にたったのでしょうか？

食事の担当に入れていただき、石森さんとそして奥様と知り合うことができ、とてもうれしい出会いでした。同行の友人の娘さんも、ほったらかしにしたおかげ（笑）でたくさんの方に声をかけていただいで、交流ができていようホッしました。

心残りは、勝手がわからず朝のトイレ掃除参加を躊躇したことです。起きていたのだから、勇気を出して手伝いに行けばよかったと思っています。

そして、大川小学校へ。専修大学あたりからは、前回四日間通った道でした。しつかり覚えていたわけではないですが、二年の月日でそんなに変わ

っていないような気がしました。ただ、水に浸かっていたところが、田畑になっていたり、橋が架かっていたくらいでしょうか？

小学校では。聴かせていただいたお話に心が痛みながら、前日の石森さんのお話とダブっていました。ここでは心ない観光気分の人たちの行動にっらい思いをされています。また一方で、来てくれるだけでうれしい！と思う方々がおられます。ピースサインの記念撮影や線香たてのたばこの吸い殻は論外としても、前者は見に行きたい（言葉は悪いですが）ところで、後者はそうでないのでしょうか。悲しい矛盾です。この矛盾が、復興の妨げの原因の一端を担っているように感じ、さらに悲しくなりました。

帰ってきてから、私は友人や仲間「遊びに行くなら東北に行こう！」と誘っています。ペイフオワード！今、私はできるのだから、できることをしよう！今、できない人たちも、できるようになったら代わってやってくれる！私が今までもけた「恩」に気づいていようといまいと、またこれからいただける「恩」に気づこうと気づかまいと、その人に返せなくても、今できることに感謝をして、誰かのほんの少しの役にたてればうれしいのだから。

大川小学校を後にする時、私は話しかけていました。

「大人は、本当はあなたたちを助けたかったんだよ！みんな、みんな！」

★★京都府七十代 女性★★★

復興地に学ぶ会、日本を美しくする会、便教会の皆様、今回も参加させて頂き感謝申し上げます。鈴木先生ご夫妻、浅野様、石森ご夫妻様、お忙しい中いつもありがとうございます。

毎回感じています。往復の車中何をお話しようかと、思うのですが、復興に学ぶ会に参加される皆様の意気込みに圧倒されます。特に帰りのバスの中での貴重な体験発表は、最高に大好きな時間です。金先生が、弟さんのお話をされました。弟さんは、病気のお父さんのお店を手伝いながら、学業に励まれています。お父様に、行かせて頂きますと、感謝の気持を、伝えられるそうです。金先生の弟さんの、心優しさと愛情の深さを感じました。産大の、宮崎先生が毎回生徒さんを、大勢参加させて頂きありがとうございます。学生さん達は皆参加して、多くの人から学びましたと感想を、お話し下さいました。宮崎先生すばらしい素晴らしい生徒さんばかりで、社会人になられた時がたのしみですね。久井様の窓拭きの技術は感心いたしました。車中でのヨイトマケの唄は、言葉にならない感動と感銘をうけました。有難うございました。

大谷先生、復興に学ぶ会次回の企画を楽しみにしています。

★★大阪府二十代 女性★★★

第十六回復興支援活動（復興地に学ぶ会）に参加させて頂きありがとうございます。震災があったあの日は、個人懇談中で保護者ともに園庭に避難していました。情報は入って来ず、どこが震源地で、東北地方を襲った津波のこともその時は思いもしていませんでした。家に帰宅し、メディアから送られてくる情報はあまりにも悲惨で残酷なものでした。何度も繰り返し流されている、町を飲み込む津波の映像が脳裏に焼き付きました。原発事故に自分の命を削って向かって行く方々の姿、飼い主と離れた動物、戻すことの出来ない現実がそこに写し出されていました。

宮城県仙台市に転園していた子どものことが気になり、電話を掛けました。繋がるはずもなく、毎日何度も掛け五日目に繋がった時は、涙が出ました。その子は幼稚園から帰宅し、母親と一緒に地震にあつたそうです。家族は全員無事でした。自宅は地震により倒壊し、今は祖父の家に居住して、休みの日に自宅の片付けをしているそうです。その子の母親は、「もしも一緒に離れ離れだつたらと思うと怖いです」と話されま

した。その子も現在二年生になり、小学校生活を楽しんでる様子が写真で送られてきました。今後もこのを家族との関係を繋いでいたいと強く願っています。

震災から二年が過ぎ去り、たくさんの方が現地でボランティア活動をされているのを知りながらなかなか行動に移せずに過ごしてしまいました。カトリックの園に勤めている私は、毎朝職員と共に「震災の祈り」を唱えていました。祈りで何が出来ているのだろうと思ひ、佐藤さんに教えて頂き今回参加させて頂くことになりました。この目で、耳で、手で何が出来るかは分からないが、知るところで何か変わるのではないかと思います。活動に参加させて頂いたことで、訪れなければ分からなかったことがたくさんありました。復興は今もこの瞬間も続いていて、これからも続いていくのだと感じました。人と人との出会いは本当に大切で、繋がる心を持ち続けられる、心が寄り添う絆を教えて頂きました。今回何も出来る事はなく、与えて頂いた環境に入れて頂いただけです。経験させて頂いたことを忘れずに、心に留め周りの人に話せたら良いと思います。ありがとうございます。

★大阪府二十代 女性★

第十六回復興地に学ぶ会に参加させていただいて、今回私ははじめての参加になり、まず、この会のことを私は知りませんでした。掃除に学ぶ会も知らなく、ボランティアというものに参加させていたたくのも初めてで、本当に初心者の中には学ぶ事が多かったです。復興地に行くのも初めてで、復興地を見て衝撃を受けました。テレビでは見ていて知ってはいましたが、実際に見るのは全く異なり本当に地震、津波の凄さを感じる事ができました。本当におきてる事とははつきり認識できていなかった私の意識がぐっと高まりました。まだまだ私の意識は低いと思いますが、現実の事として認識ができたと思います。

ボランティア活動では、どんどんきれいになっていく様子のはつきりとわかり、たくさん的人数ですることのチカラの大きさ、楽しさを知りました。今迄の人生の中でこんなにも掃除をすることが楽しいと思えたことはなかったです。私は何の準備も持ってきていなかったのですが、箒、チリトリ、雑巾といったすべての掃除道具をご用意してくださっており、活動もテキパキとされて、感動いたしました。

また、ボランティアに参加させていただく前までは、私になにができるのかと、敷居が高いというイメージがあったのですが、まったくの認識違

いでした。ボランティアとは自分のできる範囲でいつでもどこでもどんなことでもすることができるとなにかと思えました。

この会のおかげで復興地にも行け、たくさんの方と出会え、たくさんのお話を聞け、たくさんの方のすばらしいココロを感じるができ、ほんとうに素晴らしい会だと心から思いました。ありがとうございます。

★兵庫二十代 女性★

私は今回初めて参加させていただきました。すべてが用意された四日間、たくさんの方々のお心に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

震災から二年という時が経ち、自分のなかでだんだんと無意識に思いが薄れてしまっていたように思います。現地を訪れるのは今回が初めてで、参加する前は楽しみという気持ちより、実際に現地に立ったとき、自分はどういう気持ちになるのだろうかという緊張のほうが大きく感じられました。行ってみて感じたことは、やはり実際に現地に行かなければわからないこと、感じられないこと、学べないことが必ずあるということ。二日目の朝に訪れた門脇小学校の前に住宅地が広がっていたなんて想像できないほどでしたが、

地面をよく見るとバターナイフや靴袋など、そこで暮らし生活を送っていた方々の確かな跡がありました。また、大川小学校に行かせていただいたときの気持ちは言葉では言い表すことができません。今でも思い出すと胸が締め付けられ、涙が出ます。日常の当たり前は決して当たり前ではないということ。もつと毎日に感謝して生きていかなければならないこと。私は日々最善の努力をして生きているだろうか。苦しい思いをした子どもたちや、今も辛い思いしている方々の気持ちを思うと、考えさせられることがあふれ出てきました。また、金華山での清掃でも学ぶことは多くありました。一人では出ないパワーが、誰かと一緒に作業することで発揮されていると感じられ、自分周りの人に知らず知らずのうちにパワーをもらって生きているんだなと人のパワーの偉大さを改めて痛感しました。活動にとっても楽しく取り組むことができ、清々しい気持ちにさせていたことができたのは、参加されているエネルギーあふれる皆様のおかげです。

そして、交流会では「つながり」について深く考える機会をいただきました。「来てくれるだけで嬉しい」とおっしゃる現地の方と、大昔からの友人のように抱き合い、お話をされる姿を見て、心のつながりの強さ、あたたかさを、その大切さ

を教えてくださいました。現地に足を運ばなければ学べないことがある、ということを知った自分にできることは、この学びを周りの人々に伝えていくことで、「つながり」をつなげていくことだと感じていきます。

今回、復興地に学ぶ会に参加させていただき、私にとって大切な四日間となりました。未熟な自分自身を見つめ直すことができ、多くを学ばせていただいたことに本当に感謝しています。参加されていたメンバーの方々は熱い思いの方ばかりで、感動の連続の四日間でした。今後、この学びを活かし、日々感謝しながら生きていかなければと思います。携わってくださいすべての皆様から感謝いたします。本当にありがとうございます。

★★兵庫県三十代 女性★★

今回、同じ小学校の先生に誘ってもらって、参加させていただきました。

金華山でのしかの糞拾いは、思った以上に時間と手間のかかる作業でしたが、みなさんの行動力に、自分自身も突き動かされるような感覚でそうじを一緒にしていました。今回、そうじをしていて思ったことは、だれかのためだからこそ、できることなのではないかということでした。

また、門脇小学校と本川小学校にも寄らせていただき、忘れてはいけない、風化させないという気持ち強くしました。

そして、たくさんの方との出会いに、感謝の気持ちでいっぱいになりました。同じ教員の仕事をされている方がたくさんおられることにも、よい刺激をもらいました。

今回初めての東北宮城でしたが、一度だけではいけないと思っています。また参加させていただきます。ありがとうございます。またお会いできるのを楽しみにしています。

★★京都府二十代 大学院生★★

今回は私にとって三度目、そして初めて行ってからちょうど一年という金華山での活動でした。冒頭、参加申込段階でフライングしてご迷惑をおかけしましたが受け入れてくださった大谷先生に感謝申し上げます。今回は時系列に書いていこうと思います。

【行きのバスで】

行きのバスの中では昨年この連休で行ったときのことを思い出しながら自己紹介を聞いていました。途中のサービスエリアでの休憩では降車時にこれまで毎回お世話になっている神姫バス運転手の新西さんから思いがけず声をかけて

いただきました。一参加者の私のことまで覚えていてくださったことがとても嬉しく、また運転手さんも私達を本当に同志だと思ってくれている温かさに感動しました。

【金華山での活動】

金華山に着いて真っ先に気づいたのは島の入り口の鳥居の「金華山黄金山神社」の石碑がきちんと立った状態で復活していたことです。後でいただいた通信によると倒れていたのを今年二月に修復したということで、二年を経てようやく「災害に見舞われた場所」から「本来の神社の姿」に戻り始めたのを感じました。また昨年大阪産業大学硬式野球部の学生が作った鉄板のガードレールもありました。こうした変化を見られたことが嬉しく、以前来た人と初参加者の間での話もはずみしました。このように同じ場所を定期的に訪れ続けることで復興の様子を見守れることに気づきました。

五月頭の巳年の大祭に向け今回も公園の鹿の糞や落ち葉の掃除を着いた日に行いました。公園は広い上に掃きにくい場所もあるのでし一人だと心が折れそうでしたが、久し振りに合流した東京の方々も含め大勢で掃除していると他の場所を引き受けてくれるという安心感もあって狭い範囲を集中的にすることができました。夜は仮設商店街のおしかのれん街の石森さん

のもとで作っていた温かい料理をご馳走になりました。のれん街の中の石森さんの店はいつも大人気で行ったときには満員御礼のことも多いのですが今回は全員で美味しい料理をたくさんいただきました。また金華山の宮司さんの近くの席になり神社の由来や今度の祭りのことなどいろいろ教えていただきました。夕食後石森さんご家族に話していただきました。逃げる途中のこと、家族揃うまで不安だったこと、被害状況によって同じ市内でも温度差があること、そして我々自身支援というより遊びに来ているような気がすることについては「震災があつたから出会えた。遊びに来るだけでも来て欲しい」と言っ下さいました。

次の日は東京組を見送った後窓拭きを行いました。掃除のプロの久井さんのやつたところは時間がたつてもきれいなままでしたが、自分でやってみると最初きれいになったように見えても時間がたつと拭いた跡が残ることがあり簡単そうで難しいことを知りました。また少し慣れてきた頃に樂をしようとしてつい手順を省いてしまつてかえつてよくなかったこと、姿勢を保つために場合によっては窓の方を開け閉めするという工夫も教えていただきました。回を重ねるごとにペアを組んだ大崎先生との呼吸もどんどん合つてきてあつという間に時間がたちました。

【おしかのれん街での交流】

金華山を離れて牡鹿半島に帰るとききれいな船着場ができていたりかつてボランティアセンターだった元公民館が既に取り壊されていたりして驚きました。昼をおしかのれん街の黄金寿司でいただきました。昨晩石森さんたちがさばいた刺身も本場の魚は関西で食べるのとはやはり違つて感じました。その後千々松さんの店に行くと「いつもありがとう」と言つてもてなして下さつてみんなでいろいろ話していました。千々松さんのご両親が昔私の地元の佐賀県におられたことなど聞いて思いがけないなりに嬉しくなりました。また他の店では支払いの間来られていた地元の方と二言三言ながら話したり冗談に笑つたりと楽しい時間を過ごしました。

【大川小学校】

大川小学校にお参りするとこれまで来たときよりも花がたくさんあるように思いました。ご家族が植えられた花も何種類か咲いておりそのうち一つは「忘れな草」だそうです。子供を思う親の心、かつて聞いた「せめて夢の中でも会いたい」という言葉も思い出されお子さんもご家族も心の安らぐ日が来るのを願うしかありませんでした。奥へ行くとい前の卒業記念壁画が残っていました。以前の小学校の絵や「みんな幸せにならな」と一人の幸せはない」という言葉が書いてあり

一瞬震災後に描かれたものかと思つてしまうほどでした。現地ですつと見守つておられるたけやまさんからここに植えた向日葵が一日中花を学友校の方に向けていたと聞きバスの中では隣の愛原さんがその写真を検索して見せて下さいました。震災前学校では毎日いろいろな出来事があっただろうけれど子供も先生もみんな大好きな学友校だっただろうと思えたのが救いでした。

【道の駅から帰りのバスまで】

最後に寄つた上品の郷には浅野さんと鈴木先生ご夫婦が見えられていました。鈴木先生と一対一でお話するのは初めてだったので「何度も来てくれてありがとう」と言つていただいて嬉しかったです。最後別れるときは三人から新しい生活が始まりつつあることをお話しいただきましたが浅野さんの場合かつての家との別れなどもその一つで、一口に復興といつても中身は関西で思っている以上に重いことを認識しました。最後バスの中の体験発表は山城大悟さんたち二人の鉢植えと絵葉書配りの活動報告に聞き入りました。トラックを借りてホームセンターへ行き自ら考えながら動いている姿にとっても感動しました。

【「大好き」は嬉しい】

これは金華山の夜に頭に浮んで以来今回ずっと実感し続けた山元加津子先生(特別支援学校の

先生)の言葉です。今回も石巻で元気をもらって
くることができました。人手がほしい時期が終わ
ってけると、掃除しても鹿は毎日糞をするし行く
ことで本当に役に立っているのだろうかと考え
てしまうこともあります。一目見るだけでもと
バスの来るのを心待ちにして待っていてくれる
人がこれだけいてお互いに元気を与えあつてと
嬉しくなる活動だと思いました。主催して下さる
大谷先生はじめ大阪便教会の先生方、東京の掃除
の会の皆様、日本を美しくする会の皆様、現地の
皆様、参加者の皆様、神姫バス運転手の新西さん
亀田さん本当にありがとうございました。

★大阪府二十代 女子大生★

私は、今回初めて東北・石巻に行かせていただ
きました。宮崎生まれ、宮崎育ちの私は今まで大
きな地震を経験しているわけでもなく、この東日
本大震災も本当に同じ国の中で起こったものだ
とは思えないまま、二年間が過ぎていきました。
しかし、まだ間に合うのなら被災地を見てみた
い、震災を体験した人のお話を聞いてみたいと思
い、今回のツアーに参加させていただきました。
私たちは大学でおよそ百個の鉢植えに学生から
メッセージを募集し、花を植えて石巻の人々に届
けるというのが今回の活動の目的でした(本来の

金華山での清掃活動とは別行動をとらせていた
だきました)。石巻に到着してからは、この被災
地の様子を、そこに住む人たちのことを目に頭に
焼き付けようと必死に見ました。知らないことは
同行した同級生に助けってもらいながら積極的に
石巻の人に聞いたりもしました。それでもわから
ないこと、知りたいことは増えていくばかりです。
そんな初心者ですが、この石巻での二日間で印象
に残ったことを二つ書かせていただきましたと思
います。

第一に、門脇小学校のことです。門脇小学校は、
生死を分けた日和山(ひよりやま)の海側にあり
ながらも子ども、教職員全員が避難して助かった
という小学校で、私たちはそこに三度行かせてい
ただきました。一回目は、バスを途中下車して初
めて門脇地区の一带を見た時のことです。それま
でバスで通ってきた町並みとは一転し、がれきは
片づけられ、ただ建物のコンクリートの土台が残
されただけの「何もない」といっていいほどの場
所で、私は大きなショックを受けました。二回目
に訪れた時は、石巻駅から日和山を越えて、歩い
て小学校に行きました。一回目のときよりもつ
と近くに行つて、裏から校舎の中まで見ました。
すると三階は全焼、波の運んできた火が上から校
舎を焼いていったということでした。二階のほと
んど焼けていない教室を見ると、机、いす、掲示

物もそのまま残っており、子どもがそこで楽しく
過ごしている姿さえも浮かびました。黒板には
「明日の予定・連絡」と書いてありましたが、その
子どもたちにとってこの小学校での「明日」は来
なかつたのだと思うと、心がひどく傷みました。
私にとっては、門脇小学校の子ども、教職員全員
が無事に避難して今もどこかで生きているとい
うことが唯一の救いでした。三回目は、私たちの
鉢植えを献花として手を合わせに行きました。そ
の時は、二回目のときにはなかつた鯉のぼりが百
匹ほど強風にあおられ泳いでいました。石巻の
人々の「復興するぞ」という力強い決意を目にし
て、こちらが元気をもらってしまいました。

第二に、情報の大切さについてです。私たちは、
震災のときに輪転機が水につかり新聞が発行で
きなくなつてもなお、模造紙にマジックで手書き
という壁新聞を六日間作り続けた石巻日日新聞
社を訪れました。実際の壁新聞を見て、たくさん
質問をさせていただきましたが、中でも「正しい
情報・間違つた情報」のお話が印象的でした。震
災が起こると、今まで当たり前で得ることができ
ていた正しい情報(市役所や警察が事実に基づい
て発表したもの)も、すぐに得られない状況にな
ります。すると、人々の中で真実かどうかから
ない噂も流れ、それが「間違つた情報」になりま
す。「あの橋は残っている」という情報も、それ

が間違っていたら、食糧や水を買に行く道が断たれてしまうことになります。このような正しい情報・間違った情報が混在している中で、石巻日日新聞社は「正しい情報でしつかりとした判断を」と人々に訴えていました。

第三に、人との出会いについてです。私は、東北・石巻を訪れるのも初めてで知り合いがいるわけでもなく、尼崎から出発した同じバスの中にも知っている人は数人しかいませんでした。しかし、バスに乗り込むと、それぞれが東北や震災について熱い思いをもっていて、それを語り合うことですぐに打ち解けることができました。石巻でも、鉢植えを渡すために多くの協力をしてくる方がいて、鉢植えを受け取ってくださる人もみな温かく、握手やハグも含め、大阪から来た私たちを喜んで迎え入れてくれました。このような温かい人々との出会いは、東日本大震災が起こらなければ叶わなかったもので、感謝しても感謝しきれません。

私は、この二日間(移動も含めて四日間)が楽しくて仕方ありませんでした。それはただ被災地を訪れて遊んだり面白がっていたりしたのではありません。初心者の方にとっては、被災地のすべてが新鮮で、刺激的で、非日常的でした。だからこそ、この被災地で学ばせてもらったものは大きく、他の何にも代えられない体験となりました。

これから私は教員採用試験を受け、大学を卒業して大阪で小学校教員をしていくことになりました。今回の体験をきっかけにして、これからも被災地いや復興地に学ばせていただき、それを立派に子どもに伝えられる人間に成長していきたいと思っています。ありがとうございました。

★大阪府二十代 男子学生★

自分は今回、初めて石巻のボランティアに参加させてもらいました。東日本大震災が起こってからテレビや講演会などで映像をみたり話を聞いたりして、悲惨な状況になっているのはしっていました。自分は生まれてからずっと淡路島で育ってきて、自分がまだ物心がついてない頃に阪神淡路大震災が起こりました。その時は自分の家の近くが大きな被害を受けたりしました。学校でも、震災の時の映像をみたりしたので、地震に対して怖いイメージは持っていました。今回は復興地の方になにか少しでも役に立とうと思い参加させてもらいました。行きのバスでたくさんの方の自己紹介を聞かせてもらって、皆さんの強い意気込みが伝わってきて、すごく気が引き締まるとともに、感動したり、自分にとって、バスの時間はとても良い時間になりました。金華山では長時間の掃除でしたが、ちよつと疲れたなと思って

周りを見渡せば、自分より年の方がずっと一生懸命頑張っているのをみて、自分が力を抜くわけにはいかないと、頑張ることができました。豪華なお料理をご馳走してくれた石森さん夫婦の震災当時の話は、当時の様子がリアルに伝わってきて、本当に大変だったことをすごく感じましたし、班にわかれてそれぞれ感じたことを話し合いました。自分たちは学校にいたり練習にいたりすること、生きていることも当たり前だと思ってしまうがちですが、やっぱり生かされているというのを忘れてはいけませんし、ありがとうございますという感謝の気持ちは絶対忘れてはいけません。今回、津波の被害を受けた門脇小学校と大川小学校に行かせてもらったり津波で流されてしまった街を見ましたが本当に衝撃的で、津波の恐ろしさをぼろぼろの方のお話で感じることができました。同じ日本で起こっていることと思えないといった言葉をきいたりしますが、石巻の風景は自分の地元とよく似ていて、自分の街にこんな津波がきてしまったらどうなってしまうのかと考えるととても恐ろしいです。金華山での夜、東京の方が前で話されたときに人の為にと感じていたことは自分の為になつてかえってくると思われてましたが、自分は今回復興地に少しでも役に立とうと思って

いたのですが、感謝の気持ちを忘れないようにしようと思えたこと、素晴らしい話をたくさん聞けたこと、自分の為になったことばかりです。本当にいい経験になりました。ありがとうございます。

★★大阪府二十代 男子学生★★

私は今回、初めて宮城県に行かせていただきました。初めてなので、全く予想が出来ず不安が少しありながら参加させていただきました。まず、門脇小学校に行きました。高速道路を降りてすぐの道では、建物などが建っていて普段私たちが住んでいる所とはあまり変わらないなと思いました。しかし、少し進むと家などが全くない所まで来ました。テレビでは何度か見ることはありましたが、実際に見たのは初めてでも驚きました。そして、車が何台も積み上げられている所も見ました。それを見て、テレビだけでは伝わらないものを実際に見て感じる事ができました。そして、金華山へ行き鹿のふんの掃除をしました。金華山の前の海は津波が来たときに海の底が見えるくらいまで波が上がったと聞きとても驚き恐ろしさを感じました。鹿のふんを取り綺麗にすることで心も綺麗になり、改めて掃除をするこ

その夜、皆さんで話し合いの時間がありました。そこでは、実際に地震が起きた時の話を聞くことが出来ました。その話を聞きながら当時のことをイメージするととても恐ろしく思い、毎日ごはんを食べれることや学校に行けることにもっと感謝していかないとけないなと感じました。

次の日は、大川小学校に行かせていただきました。私は大川小学校の事はあまり知らなかったの話を聞き、今もまだ見つからない子供をその親の方々が探しに来ていることなどを知り、どの様な場所かを知り、バスを降りました。そのときに、私はとても不思議なものを感じました。学校に建てられたお墓にはボールが置かれていました。それを見て野球が好きなき子も亡くなったのだと思

生かしていきたいと思いました。本当にありがとうございます。

★★大阪府二十代 男子学生★★

今回、私は石巻にボランティアとして行くことが出来て本当に良かったと思います。被災地に行くことは初めてだったので、行く前は正直、復興作業をしに行くって聞いただけで重たいイメージがありました。そんな思いを持ちながら石巻に着いて復興地の方々とお会いをした時、バスで来た私達に対して温かく出迎えてもらいました。その時に私は行く前のイメージが変わっていったことを覚えています。石巻に着いて復興作業って言っても鹿のフンを拾うという小さなことでしたが、一緒に今回のボランティアに参加した方々の作業する姿を見て何かを感じている自分がい

から思います。本当にありがとうございます。

最終日に被害の大きかった大川小学校に行き目を疑いました。小学校が悲惨な姿で残されており、その近くには災害で亡くなった方々の名前と年齢が書かれていました。見ていると九才の女の子や十才の男の子の名前も多くありました。そこに一緒に野球ボールが御供えられているのが目に入り心が痛みました。野球が好きだった小学生もいたのだと考えると辛くなりました。自分も野球が好きで小学生からやっており大学生の今でも好きな野球をさせていただいています。その御供えられていたボールを見て、自分がどれだけ幸せなことなのだと改めて感じさせていただくことができました。今回、このボランティアに参加して石巻に行き、様々なことを感じる事ができ、学ぶことができました。この四日間という短い期間でしたが、大切なことを多く教えていただくことができ感謝しています。本当にありがとうございます。福をお祈りを申し上げます。

★大阪府二十代 男子学生★

門脇小学校は写真で見たことがありましたが、実際に行くことで津波の恐ろしさを改めて感じることができました。金華山では、シカのフン掃

除などをし来た時はフンなどでいっぱい緑があまり見えませんでした。みんなが一生懸命に取り組んだことでとても綺麗になり、緑がいっぱいになりました。終わった後は、とても気持ちよいくいい気持ちになり、掃除に対する気持ちが変わり、大切さがわかりました。

夜ご飯は石森さんに材料を提供してもらい、とても美味しい料理を頂くことができました。食べたことのない料理ばかりでも美味しくいただきました。石森さん夫婦の震災当時の話を聞いていますが、途中で体調が悪くなり、あまり聞くことができず本当に損をしたなと思いました。こういう貴重な話は、なかなか聞くことができないのに、聞くチャンス逃してしまつてショックでした。しかし、被災された人の実際の話を少しでも聞けたことがとてもいい経験になりました。その後、グループになって「今後どのようにしてつながっていくか」について話し合いました。石森さんがボランティアだけでなく来るだけでいいとおっしゃっていたので、観光で訪れたり、ボランティアに行った人の話を聞いたり、講演会などで被災者の話を聞くだけでも繋がるとわかりました。僕は講演会を何回も聞かせてもらいましたし、今回ボランティアという形で行くことができました。僕みたいに講演会やボランティアなど行けない人はいます。そういう人に僕らがどん

なことをしたかなどを話すことにより、繋がりができるのでこの経験を多くの人に話していきたいと思えます。

次の日の朝は宿舎の掃除とシカのフン掃除をしました。昨日から約一日半掃除をしたんですけれど、掃除することにより心の垢というかそれが綺麗になりすっきりしました。掃除が好きになりました。

大川小学校に着く前に大川小学校についての説明を聞きました。その話を聞いていなければ僕は軽い気持ちで行っていたかもしれせん。大川小学校を見たときは本当に言葉を失いました。門の脇小学校とは違う雰囲気がありました。大川小学校の地区は津波で約8割の人が亡くなったと聞きました。亡くなった人の名前が刻まれており、それを見て涙がでてきました。大川小学校の校舎は津波の恐ろしさを肌で感じる場所でした。大川小学校の光景を見て、子供たちが楽しく遊んでいるシーンやたぐさんの笑顔であふれるシーンが浮かんできました。とても悲しかったです。今回始めてボランティアに参加して、この2日間があつという間でした。初めは不安でいっぱいでしたが、みんないい人で不安が一気に飛びました。僕たちが早く行動し準備をしなければならぬのに先生たちの行ほうが早くもつと回りを見て行動しなければならぬと思えました。先生たち

を見習わなければならないと思いました。二日間という短い間でしたが、震災の話を聞けたりとても貴重な時間でした。ここで学んだことや気づいたことを今後に生かしていきたいと思えます。

★大阪府二十代 男子学生★

今回、自分は復興地に学ぶ会に参加させていただいて本当にいい経験をさせてもらいました。今回で十六回目で今思うと、もっと早くに行動を起こしておけばよかったなと思います。最初バスの自己紹介で、自分が何故丸坊主かの話しをさせてもらいました。これはこの会に参加させていただく前に、宮崎監督と話しをしていて、その時に皆さんに話を聞いてもらえと言ってもらったので、恥ずかしながら話をさせていたかったです。皆さんに真剣に話を聞いてもらえ、ものすごくその心の中にあつたモヤモヤしていた気持ちがあけていったような気がしました。皆さんの前で話せて本当によかったなと思えました。そして宮城県に入って一番最初に行かせてもらったのが門脇小学校でした。校舎が残っていたのですが、見せてもらったときは津波の衝撃が今でも伝わってきそうな感じがしました。そして今回の活動をした金華山へ船に乗せてもらって渡りました。自分がやらせてもらった今

回の活動は、金華山に神社があるんですが、その灯籠が地震で倒されていて、それを一から組み立てていく作業をやらせてもらいました。初めての経験ばかりで、お手伝いできたかわかりませんが、一生懸命取り組みました。金華山にはミキサー車が入れないので、自分たちでコンクリートやモルタルを作りました。作業に集中していてあつという間に時間が過ぎていきました。

そして一日目の作業が終わり、晩御飯の時間になりました。晩御飯は現地の方がこの日のために一週間前から献立を考えてくださっていて、本当に美味しくいただきました。ありがとうございます。その後その現地の料理人の方とそのご家族の方に被災したときの話をしてもらいました。その時感じたのは、明日が来ることが当たり前だと思わないでこれから生きていこうと感じさせられました。貴重なお話を本当にありがとうございました。

二日目の朝は、朝から掃除をやりました。そしてラジオ体操をして体を動かして、一日目の作業の続きを手伝わせてもらいました。とうとう灯籠が完成しました。その時の達成感は今まで味わった事のない気持ちよさは今でも忘れません。一緒に作業して指導して頂いていた方が「本当に来てくれてありがとう」と言ってもらえました。ものすごく嬉しかったです。そして金華山を後にして

仮設商店街に行ってお昼ご飯をいただきました。気づいたことは、あちらの方はとても優しく親切な人ばかりで、こちらの方が元気をもらってばかりの日々でした。

そして最後に一番津波の被害が大きく多くの犠牲者がた大川小学校に行かせてもらいました。その大川小学校についた瞬間、空気が止まっている感じがしました。ご冥福をお祈りしてから校舎を一周させてもらい、プールのところに小学二年生くらいの靴が右足だけ置いてありました。その時本当に津波が全てを飲み込んでいったのだと痛感しました。今回初めて参加させてもらい本当にボランティアというより、自分自身が勉強させてもらうことばかりで、学びが多かった四日間になりました。本当にありがとうございます。また機会があればこんな私ですがよろしくお願ひしたいと思えます。

★大阪府二十代 男子学生★

四月二十六日～二十九日にかけて十六回復興地に学ぶ会に参加させて頂きました。自分は初参加ということで、正直、初めは何をしていいかわからないという所から初日がスタートしましたが、自分に何が出来るかと考えた時に、力になれることは、少しでも何かを勉強して帰ることは

沢山できると思っでバスに乗っていました。

まず、バスの中で全員の自己紹介を含め、意気込みなどを感じました。そこで感じた事は気持ちの素直な人ばかりだなあとという風に感じました。特に小学生の先生の方が多く、ものの考え方や話の仕方、表現の仕方がとても素晴らしいところに僕には学ぶところがありましたし、ほとんどの方が何かを得ようと積極的だったので、心に残りました。

まず、石巻に到着して、津波があつた場所をバスでゆっくりと見て回りました。流されてしまつた車がたくさん積み上げてあつたり、家がほとんど流されてしまつていて殺風景になつていた街の姿を見たとき、津波の恐ろしさを身体が感じましたし、普通に生活させてもらつている事を大事にしないといけないと感じました。

そして、金華山へ行くため、船乗り場へ移動し船へ乗りました。ここでは、僕自身、船で海を渡つたのは初めてだったので酔いそうになつたりしましたが貴重な経験でした。金華山では、僕は地震で倒れてしまつた「灯籠」を立て直す作業を久野と織地と三人で一緒に手伝わせて頂きました。そこで作業をしている二人の七十五歳のおじさんと出会いました。一人の方は福井県から手伝いに来ていました。もう一人の方は石巻の方でボランティアで仕事を手伝つておつしやつ

ていました。自分達は、この方たちと一緒に作業を二日間作業をし、灯籠を二本立て直す事が出来ました。小さな事かもしれないけれど、少しでも復興作業の力になれたかなと思うと嬉しかつたです。それに、この作業を二人だけでやつているのかと思うと、本当に大変なことだと思ひます。その原動力は、やはり復興させようという思ひなのではないかなと思ひました。

金華山では全員でカツオの刺身や鯨の唐揚げをご馳走していただきました。本当にここまでしてもらつていいのかなと思ひました。そのあと、その料理をご馳走させていただいた石森さんに、津波のときの事など、普段聞けない貴重なお話を聞かせてもらえました。ありがとうございます。この三日間全体を通して、僕は阪神淡路大震災の時は、覚えていないので、震災のあとの事は初めてでした。今回石巻に行かせていただいて、色々な方と出会い、お世話になりました。初めての経験を沢山させてもらひ、本当に勉強になりました。これから生きていくことに感謝の気持ちを忘れてはいけないと思ひます。この経験を活かしていきたいなと思ひます。また機会があれば訪れたいと思ひます。本当にありがとうございます。

★大阪府二十代 男子学生★

この度、僕は、第十六回・復興地に学ぶ会に参加させていただきました。今回行った場所は、金華山という島で、僕自身、二回目でした。まず、金華山に行く前に、高速道路を降りてから門脇小学校にいき、バスを降りて周りを歩きました。前は、十月に来たので、時間としては半年くらいたつていて、どのように変わつていふのかというのがとても気になつていました。そこで、パッと目があったのは門脇小学校の前にあつた多くの家の土台でした。前回来たときには土台がいろいろなところにあつたと記憶していましたが今回は、減つていふように思ひました。また、同じく、減つていふように感じたのは、積み上げられていふ車の量でした。大谷先生のお話でも、車の量は三分の一に減つていふときき、実際に減つていふんだなと思ひ、それと同時に処分された車はどうなつていふのかと気になりました。その後、船で金華山に向かひましたが、港をでたあたり以前来たときにはなかつた養殖の用具があり、震災まえにすこしつ戻つていふのだと思ひ、嬉しい気持ちになりました。

金華山の港では、以前なかつた、シヨベルカーなどの重機があり、以前来た時には、ポロポロにつぶれていふ小屋や、倒れていふ石碑が立つていふので、とても嬉しく感じました。今回の金華山

での作業は、掃除等でしたが、産大の野球部三人で灯籠の立て直しを手伝いました。震災の影響で地面から根こそぎ倒されていたので地面を平らにすることから始まり、土台が水平でないと組み立てても、時間がたつと少しの傾きから灯籠が倒れてしまうので、水平にする事がとても難しかったです。そこで一緒に作業させてもらった定年を越えた方二人がいたのですが、一人の方は作業については何でも知っていて、もう一人の方はこの歳になっても勉強しているという話を聞いて、いつになっても勉強して二十歳にもなっていない僕はとても未熟さを感じ、とても勉強になりました。

夜ご飯は石森さんが料理を作ってください、温かいご飯を食べることに、郷土料理に触れることができとても幸せな時間でした。食事の後、石森さんの震災時の体験をききました。僕はグループトークの時に石森さんと同じ班だったので多くの事を話せたのですが、岩手の内陸の方は、震災のことが薄れてきているや、被災者や復興という言葉に頼っているという考えの人がいるという情報も聞きました。また、震災時に何が一番ほしいかという話になったときに、お風呂に入りたいたいと言っていました。講演会とかでは、一方的に聞くことだけですが、石森さんと質問を織り交ぜながら話を聞かせていただいて、とてもわかりやす

く、勉強になりました。

就寝前に、三階におりると、先生方が集まられて何かされていたので、近づいてみると手紙をかかれていたので、なぜ手紙を書いているのですか？と尋ねると、相手がいるから手紙を書くことができ、返事をもとめたら見返りをもとめることになるので、返事を求めず一方的に手紙を書かせていただくと教えてもらいました。そこで、僕も一枚書かせていただいたのですが、興味がわき、手紙を書くことを始めようとおもいました。

二日目は五時に起床しました。四時半におきょうとおもっていたのですが、寝坊してしまい、焦っておき、トイレに行く掃除がはじまっていたり、外では溝掃除がはじまっていたりとても驚きました。

作業二日目は午前中までの作業でしたが、僕は灯籠の微調整などをして、その日の作業が終わりました。金華山から、牡鹿半島に戻り、仮設商店街に行き、昼食をとりました。前回来た時よりも、活気があるように感じ、仮設商店街の規模が大きくなつてほしと思いました。

その後、バスにのり、大川小学校に行きました。バスを降りた時が夕方ということもあつたからかもしれませんが、大川小学校の雰囲気は時間が止まってあるように感じました。また、前は、大川小学校の周りを回ることができなかったの

ですが、今回は回ることができて、校舎の近くまで行き、見る事ができましたが、津波の強さを改めて実感しました。海から四キロ離れているのに、校舎はボロボロで、周りの住宅は流され、多くの人の命が亡くなった震災と津波の恐ろしさが怖く感じました。前回来たときに風化をさせないでほしいと聞き、どうしたら風化しないかとずっと考えましたがなかなか思いつかず、石巻出発前日に、僕がバイト先や友人に、石巻に行つてきますというだけでも、バイト先の人や友人は、震災のことを思い出せると思い、少しでも風化防止につながるのなら、これからも可能な限り石巻に行かせていただきたいと思いました。石巻に行かせていただくと、普段では気づかないことや、接点のない教員、一般の方と接する機会があり、僕自身学ぶことが多くありました。本当にありがとうございました。

★★大阪府十代 女子高生★★
復興地に学ぶ会参加させていただきありがとうございます
うございました。

今回この会に参加したいと思ったきっかけは、大阪産業大学で門脇小学校元校長の鈴木先生の講演会を聞きにいったからでした。その話を聞き、私も何かできたらいいなと思っている時、母がこ

の会のことを紹介してくれました。

門脇小学校に着き、はじめに思ったことは、ここに沢山の家が本当にあったのか。という事でした。あたりには本当に何もなく、住宅街だったとは思われない光景でした。しかし、前に行ったことがある方々から話を聞くと、これでも復興したという話でした。確かに、映像でみていたような瓦礫はあまりありませんでしたが、何も立っておらず、今はまた津波がくるかもしれないというところで、まだ住めないそうです。もし、自分の地元がこのように津波で流されてしまったら本当にどれほど悲しいかわかりません。街がなくなっただけでなく、大切なもの、家族や友達がその津波で亡くなってしまったという方は少なくないと思います。この事を今まで分かっていたはずでしたが、現地へ行き、改めて津波の恐ろしさを実感しました。

そこから、今回の活動場所である金華山へ向かいました。金華山はすごく自然豊かなところで、海もすごく綺麗でした。その海があんな恐ろしい津波になったとは考えられません。また、道路の方も津波や地震で崖崩れになった跡が沢山見られました。この金華山で鹿の糞を掃除するという活動をしたのですが、その鹿の糞の量に驚きました。こんなにも沢山の糞を見たのは初めてですが、掃除しているうちに周りがかすごく綺麗にな

って行くのを感じ心も一緒に綺麗になっ
てくような感じがして、気持ち良かったです。

最後に、大川小学校へ行ったのですが、そこは本当に衝撃的でした。バスに乗っているときから大谷先生がこの学校について話して下さったのですが、バスを降りた途端に今までの場所と空気が違っていて、本当にすごく悲しみに包まれているように感じました。学校の校舎も壁がなく、教室がそのまま見える状態で、体育館の跡のようなどころはありましたが、床はなく、土台だけが残っていました。

一通り校舎を見終わったところ、やすきちさんという方が地図を使って、当時の模様を説明してくださいました。階段を登っていたから助かったという方、あそこに避難していれば助かっていたという方、本当に些細な事で人生が変わるといような恐ろしい状況だったそうです。また、この学校にはまだ生徒で見つかっていないという方がいて、その子の親は毎日お仕事もあるのに休み時間などは今でも学校の校庭を掘り返して探しているそうです。本当に辛い現実でした。このような話をされたあと、親御さんたちが忘れな草や水仙、菜の花などの花を植えたというので、見に行かせて頂きました。その時、やすきちさんが私に向かって「泣かなくていいよ！」と言ってくださいました。そして、私だけ特別にやすきち

さんが親御さんと一緒に植えたという菜の花を頂きました。また、バスで帰る時には、やすきちさんが「この子置いて行って！」（私をおいて行って！）と言って下さったことに驚き、また本当に嬉しかったです。

この悲しい悲惨な状態である東北が一日でも早く元に近い状態に戻ってくれることを願っています。そのためにも、また機会があれば参加したいと思っています。

この四日間大変お世話になりました。今回いろいろと支援してくださった方々に感謝します。本当にありがとうございます。

★★兵庫県四十代 男性★★

日本を美しくする会からご支援を賜り継続して参りました復興支援活動も今回で十六回目となります。その中で私たちが必ず訪れる場所があります。それは、全校生徒一〇八名のうち、七四名の子どもたちが犠牲となった大川小学校であります。未だに見つかっていない子どもたちを、お母さんたちや警察の方々は今もお懸命に捜索を続けられています。大型バスで乗りつけ、何しに来たんだという声も現地ではあるかも知れません。しかしながら、今を生かされている私たち教師には、命のバトン（想い）をつないでいく

という使命があるはずで。毎回この地に降り立つと、目の前の子どもたちが毎日教室にいることは当たり前ではないと思ひ知らされます。目の前にいてくれてありがとうという原点に戻してくれるのです。愛を持つて大切に育てたいという気持ちにもさせてくれます。

そんな私たちの気持ちを感じて、現地の方が大川小学校の前でお話をして下さいました。その中で特に心に残ったお話がひまわりのお話です。

遺族のお母さんたちは、子どもたちが避難しようとした場所に、ひまわりを植えたそうです。最初は津波にのまれて潮をかぶった土なのでひまわりはひよろひよろだったそうです。

「子どもがみつからないお母さんの気持ちがいいたいほどわかります。

だから、みんなでさがします。

帰り道、花だんによって、ひまわりに水をあげます。ぎっそうをぬきます。

ちかくのおばあちゃんも、

そうさくをおえた おまわりさんも、手つだつてくれます。」（絵本「ひまわりのおか」より）

愛情をいっぱいうけて、ぐんぐん成長していくひまわりに重なるものは、何よりも大切な愛する子どもたちの姿だったそうです。

そして、奇跡が起きました。全てのひまわりが太陽の方向を向かずに大川小学校の方向を向いて咲いたそうです。学校の北側と西側に植えられたひまわり全てが学校を向いて咲いたそうです。「嘘のような本当の話なんだよ」とその方は実際に花壇まで案内して教えて下さいました。

震災から二年目の三月十一日に大川小学校には石碑が建立されました。犠牲になった方々のお名前と年齢が刻まれています。小さな年齢を見ると涙が止まりません。また、その一人ひとりのお名前とひまわりが重なります。今年の夏もひまわりたちは学校とこの石碑に向かって元気よく咲いてくれるはずで。ひまわりの育て方と咲き方に、人としての生き方を学びました。ありがとうございます。